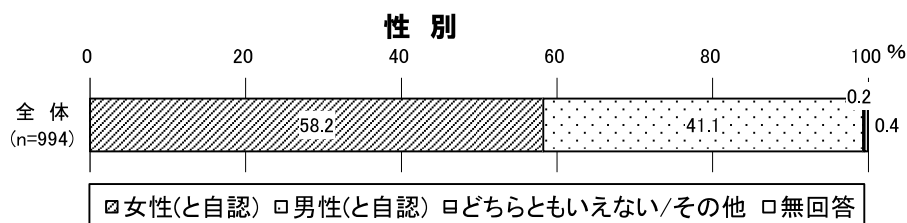


II 調査結果

あなたやご家族のことについて

問1 あなたの性別は。[○は1つ]

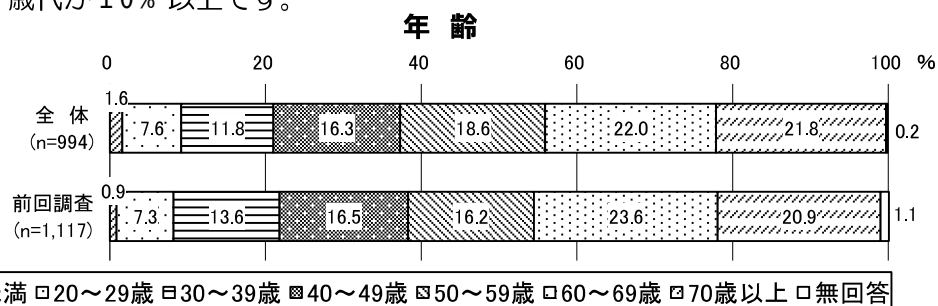
- ・回答者の性別について、「女性（と自認）」とする割合は58.2%、「男性（と自認）」は41.1%です。「どちらともいえない、または答えたくない」の割合は0.2%（2人）です。



調査票では「女性（と自認）」「男性（と自認）」「どちらともいえない、または答えたくない」として尋ねましたが、以下の集計・分析においては、前2者はそれぞれ「女性」「男性」とします。また「どちらともいえない、または答えたくない」については、その総数が小さい(2人)ため、クロス集計などにおいては「女性」「男性」のみを対象とします。

問2 あなたの年齢は。[○は1つ]

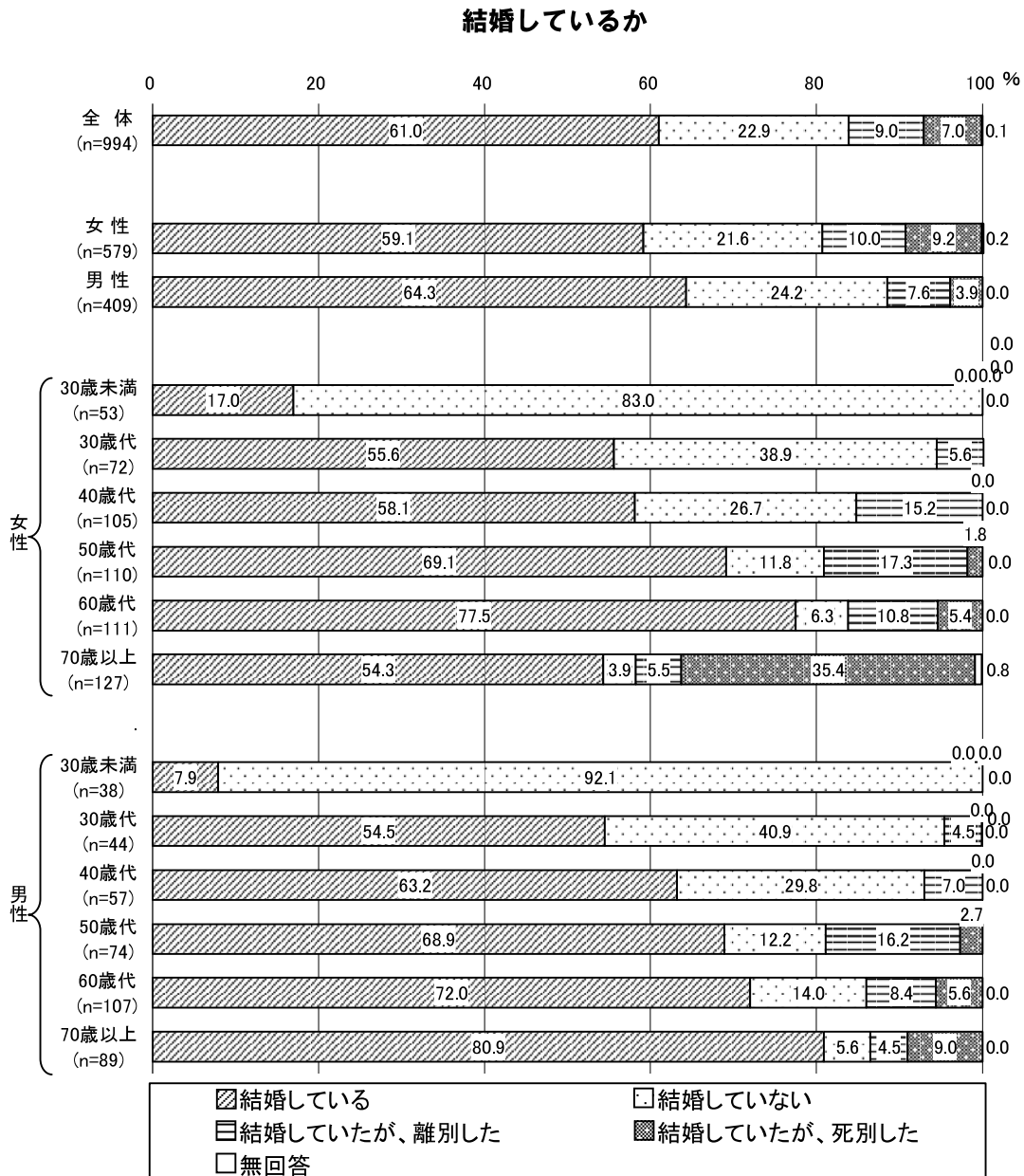
- ・年齢層が上がるほどに回答割合が増加し、60歳以上の回答者が43.8%を占めます。
- ・性別・年齢別では、女性70歳以上が最も多く、以下女性60歳代、女性50歳代、男性60歳代、女性40歳代が10%以上です。



調査票では「20歳未満」「20～29歳」として尋ねましたが、特に「20歳未満」は回答数が少なく(16人)、サンプリング誤差が大きくなるため、以下の集計・分析においては、これらを合わせて「30歳未満」として分析します。

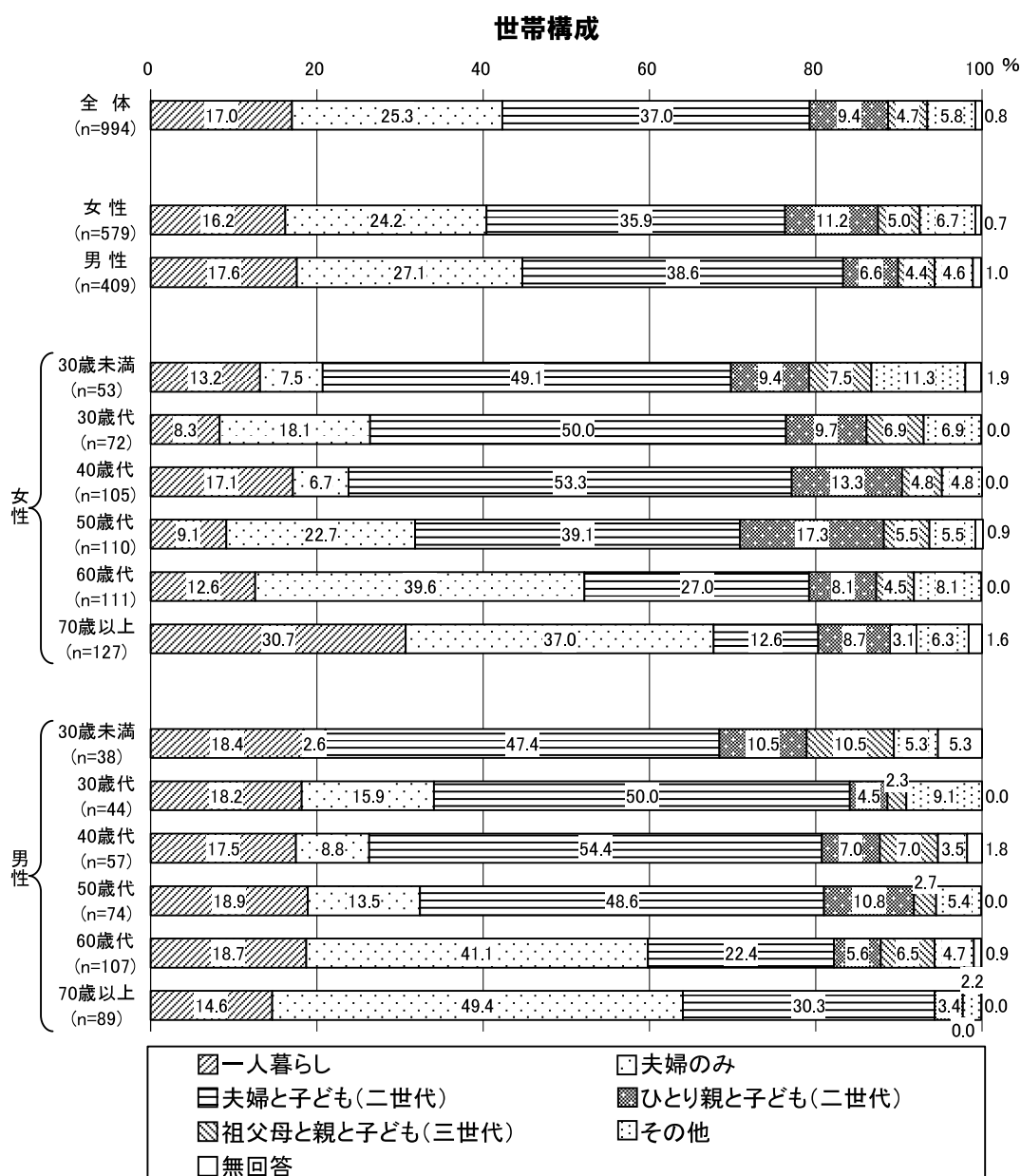
問3 あなたは結婚していますか。[○は1つ]

- 全体では、「結婚している」割合は61.0%で、女性より男性が高くなっています。
- 性別・年齢別に、「結婚している」割合が最も低いのは男性30歳未満で、これに女性30歳未満が続いています。



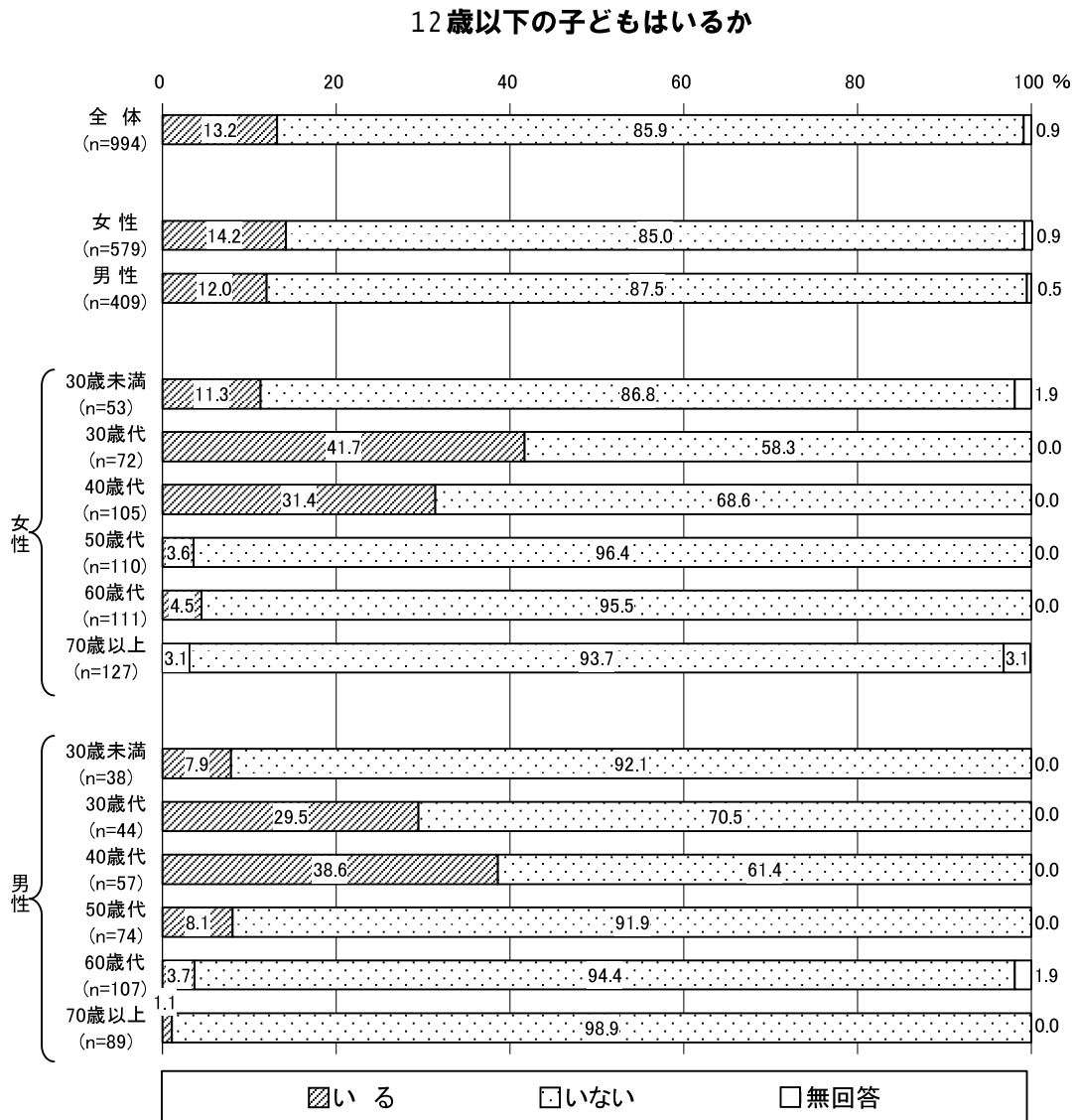
問4 あなたの世帯構成は、次のうちどれですか。〔○は1つ〕

- ・世帯構成は全体では、「夫婦と子ども（二世帯）」（37.0%）、「夫婦のみ」（25.3%）、「一人暮らし」（17.0%）などの順になっています。
- ・性別・年齢別にみると、「夫婦のみ」は男女の60歳代以上で、また「一人暮らし」は女性70歳以上で高いです。



問5 あなたには、同居している12歳以下のお子さんがいますか。[○は1つ]

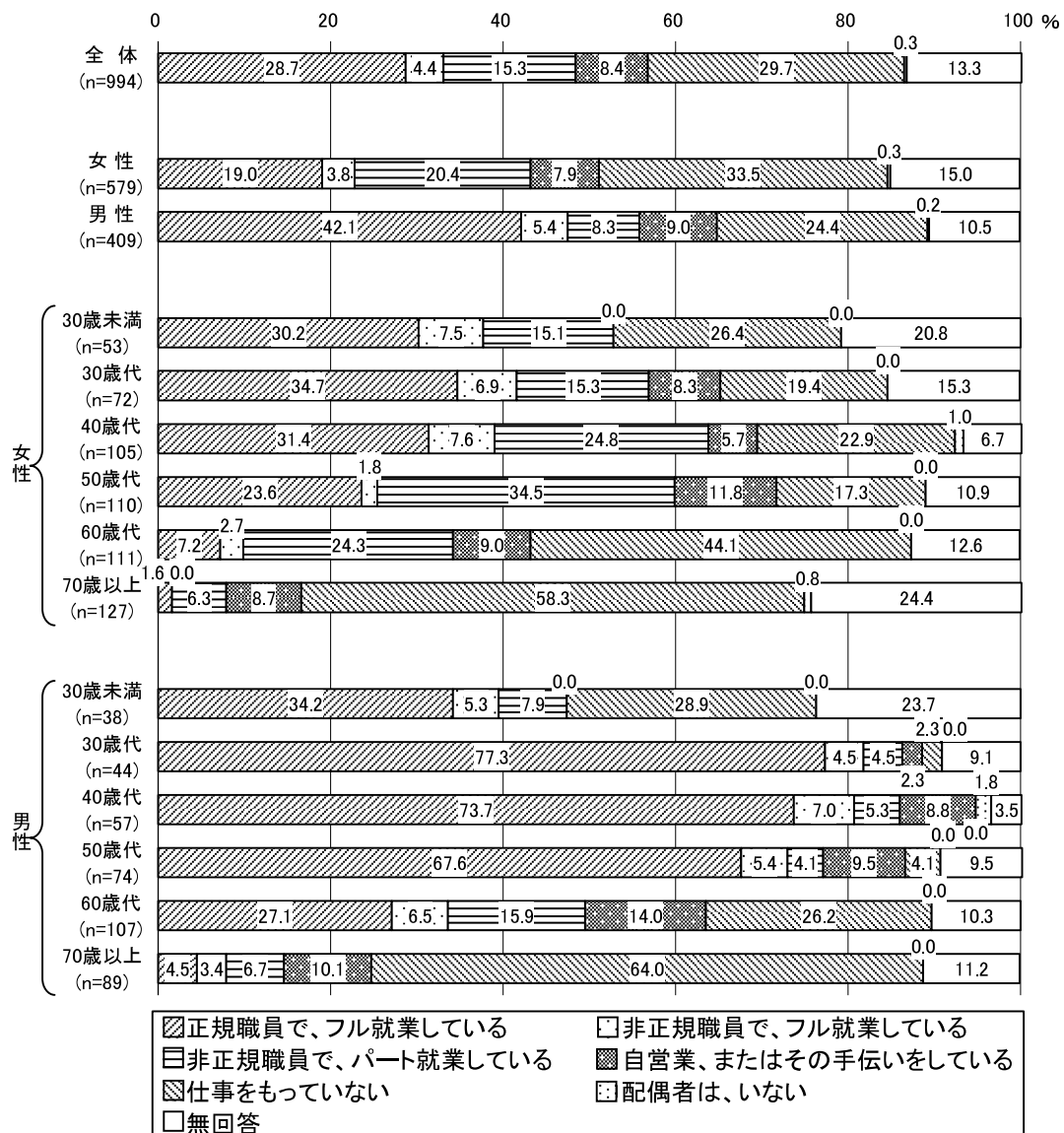
- ・12歳以下の子どもと同居している回答者の割合は、女性30歳代(41.7%)と男性40歳代(38.6%)で高いです。



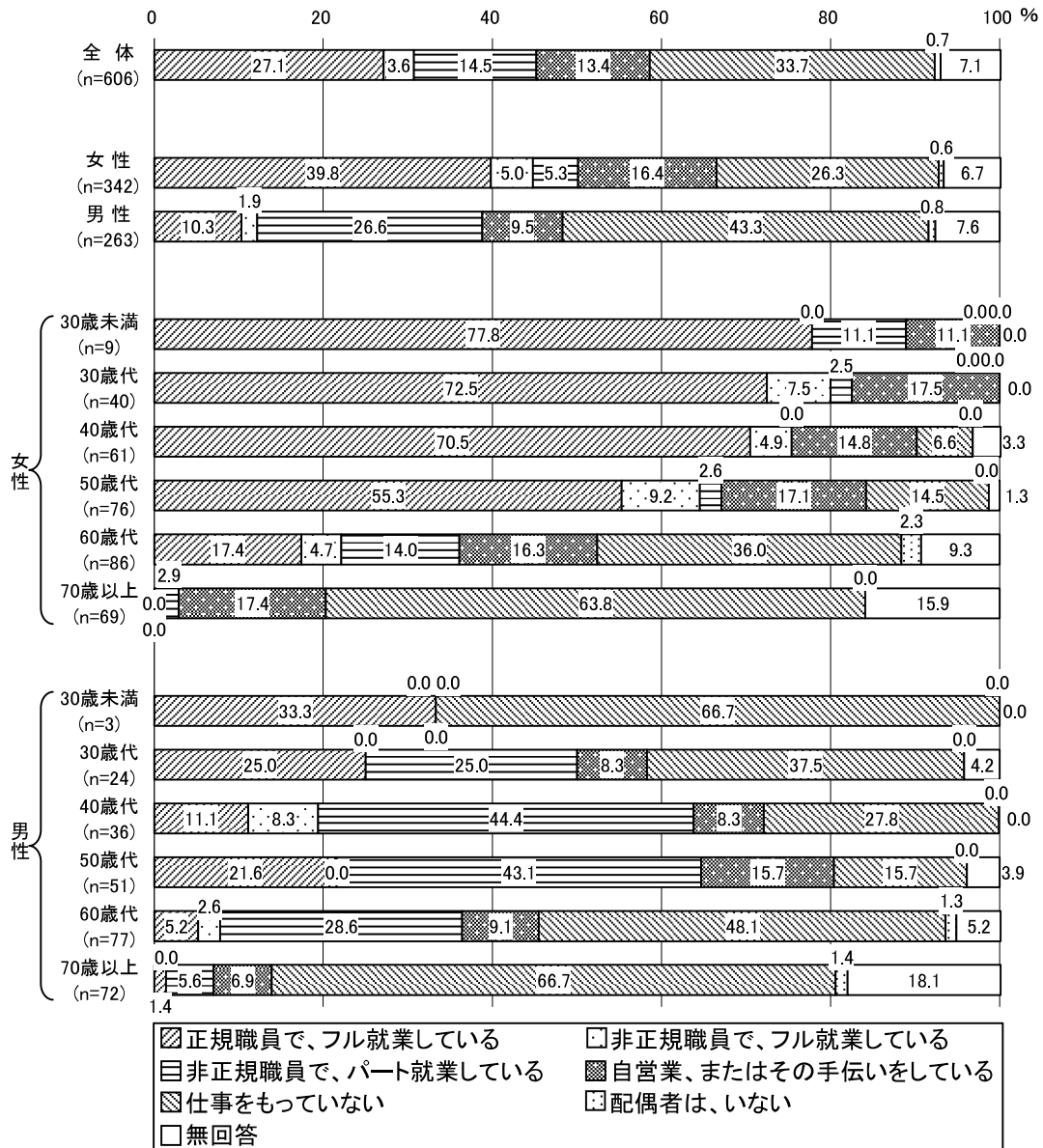
問6 あなたと配偶者（結婚している方のみ）のお仕事についてお答えください。〔 〕内に数字を記入してください

- ・性別にみると、就労状況について、女性では「仕事をもっていない」が33.5%で最も多く、これに「非正規職員で、パート就業している」の20.4%が続きます。男性では「正規職員で、フル就業している」(42.1%)、次いで「仕事をもっていない」(24.4%)となっています。
- ・性別・年齢別では、「非正規職員で、パート就業している」とする割合は、女性50歳代と女性40歳代・60歳代で高いです。
- ・回答者の配偶者の仕事でも、男性40歳代と男性50歳代の配偶者で「非正規職員で、パート就業している」の割合が40%を超えています。

あなたのお仕事



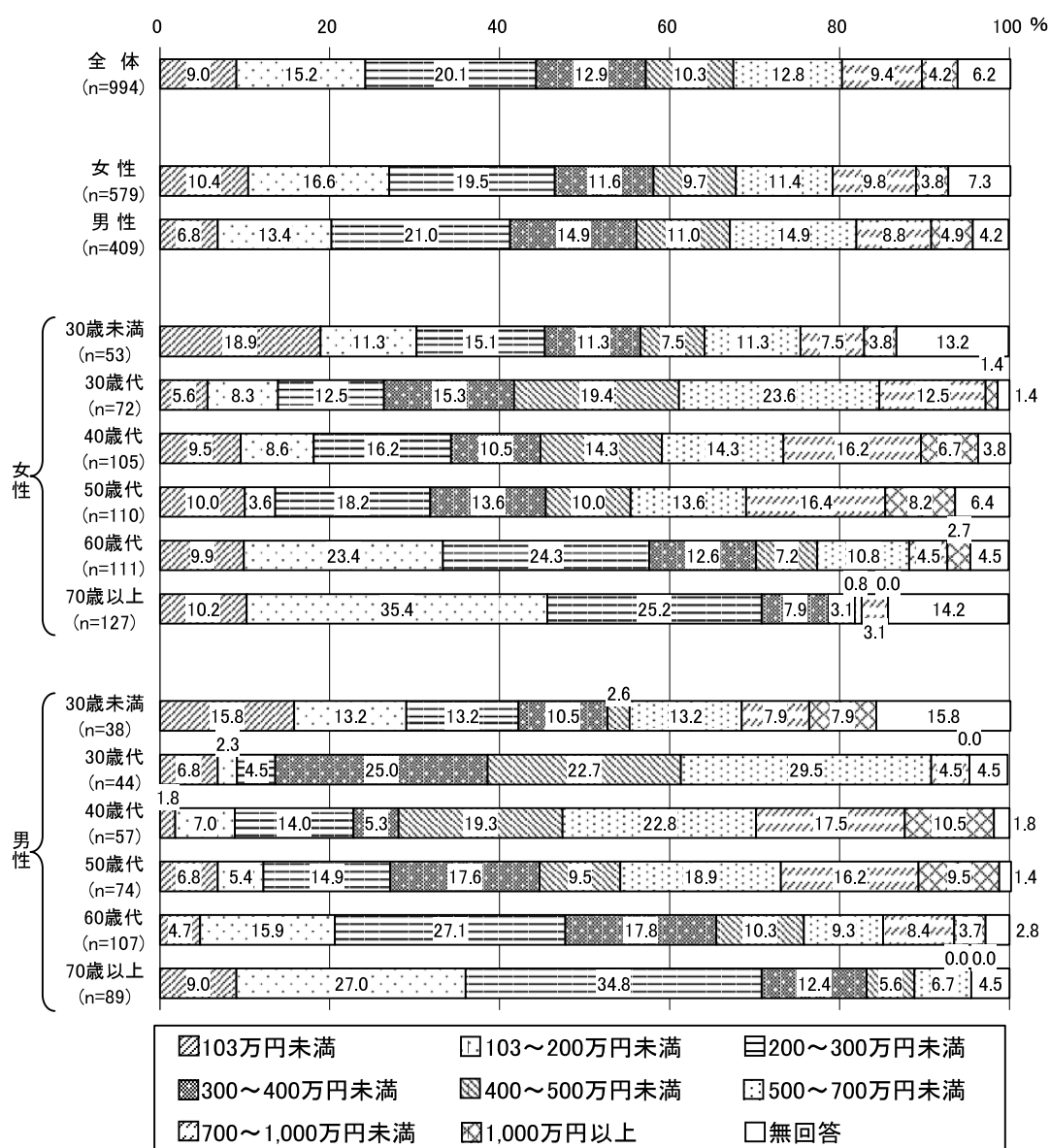
配偶者のお仕事



問7 あなたの世帯の昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。〔○は1つ〕

- 全体では、世帯年収が「200～300万円未満」の割合が20.1%で最も高いです。300万円未満の割合は44.3%となります。
- 性別・年齢別にみると、300万円未満の割合は、男女とも70歳以上で高く、いずれも70%を超えています。

昨年の世帯年収



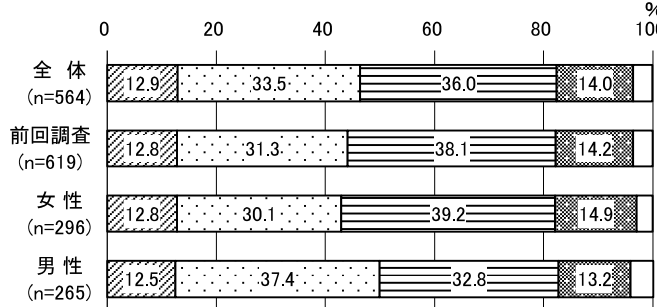
問8～問9は、お仕事をもっている方（問6(1)で1～4に答えた方）におたずねします。

問8 あなたは、いまの仕事でストレス（不安や悩み）を感じていますか。

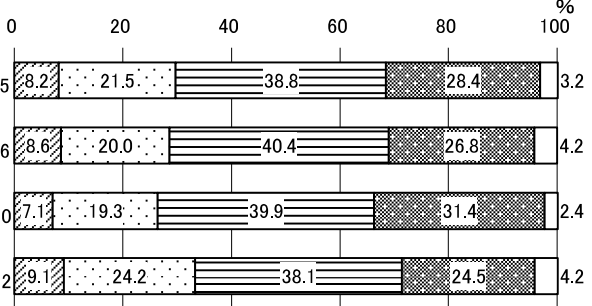
〔(1)～(9)それぞれに○は1つ〕

- 全体では、ストレスについて「ストレスを強く感じる」とする割合は、『(4)収入が少ない(18.6%)』『(1)上司や部下、同僚との人間関係の悩み(12.9%)』『(5)不況・解雇、将来性が感じられない(12.1%)』などが高いです。
- 前回調査との比較では、『(4)収入が少ない』における割合は前回調査より11ポイント高いですが、前回調査では『(4)収入がない』と異なっています。
- 性別でみると、「ストレスを強く感じる」とする割合について、男性が女性より3ポイント以上高い項目は、『(8)休みが十分とれない』『(3)短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない』『(6)仕事がおもしろくない』です。
- 性別・年齢別に、「ストレスを強く感じる」が高かった項目についてストレス強度係数を、その第1位・第2位をみると、『(4)収入が少ない』は男性30歳代と女性30歳未満、『(1)上司や部下、同僚との人間関係の悩み』は男性30歳代・30歳未満、『(5)不況・解雇、将来性が感じられない』は男性50歳代・30歳代です。
- 男性が女性より3ポイント以上「ストレスを強く感じる」とする割合が高い項目のストレス強度係数をみると、最も高い層は、『(8)休みが十分とれない』では男性30歳代、『(3)短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない』では男性30歳未満、『(6)仕事がおもしろくない』では男性30歳未満と、いずれも男性の若い層です。

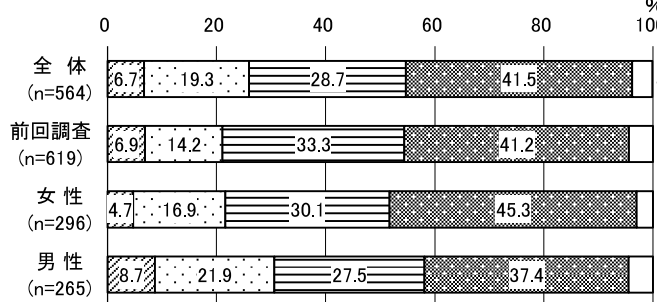
(1) 上司や部下、同僚との人間関係の悩み



(2) 労働時間が長い

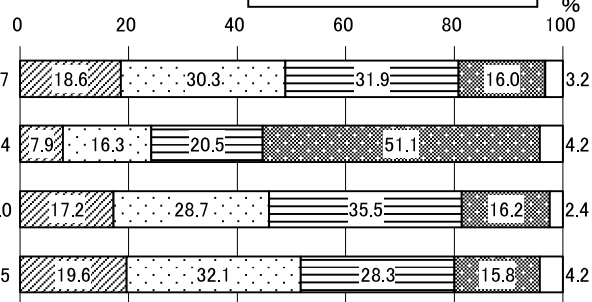


(3) 勤務時間に柔軟性がない

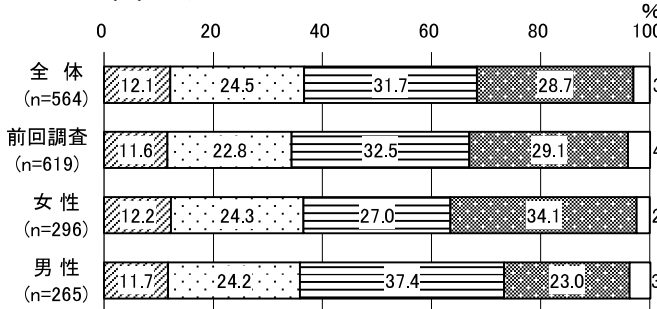


(4) 収入が少ない

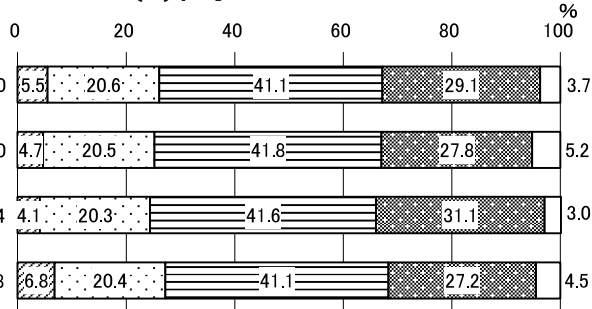
前回調査は「収入がない」



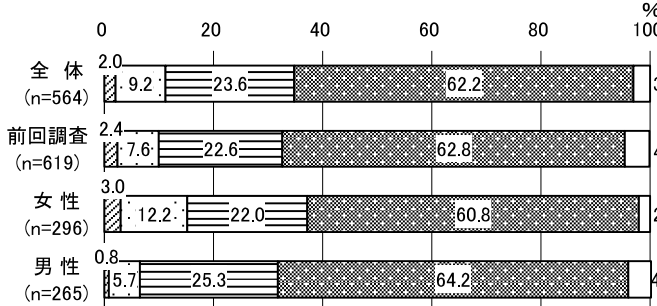
(5) 不況・解雇、将来性が感じられない



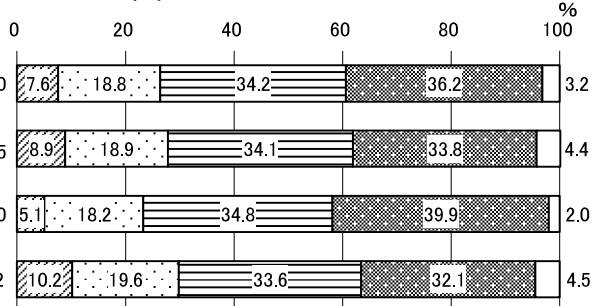
(6) 仕事がおもしろくない



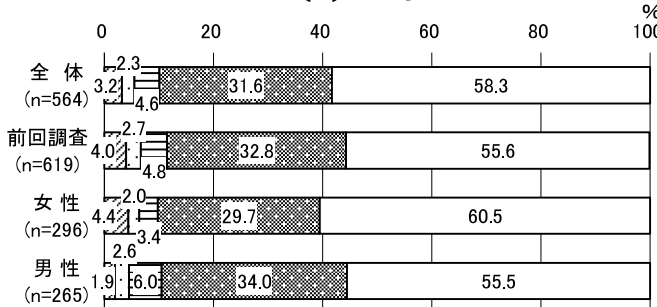
(7) 子どもなどの世事で十分に働けない



(8) 休みが十分とれない



(9) その他

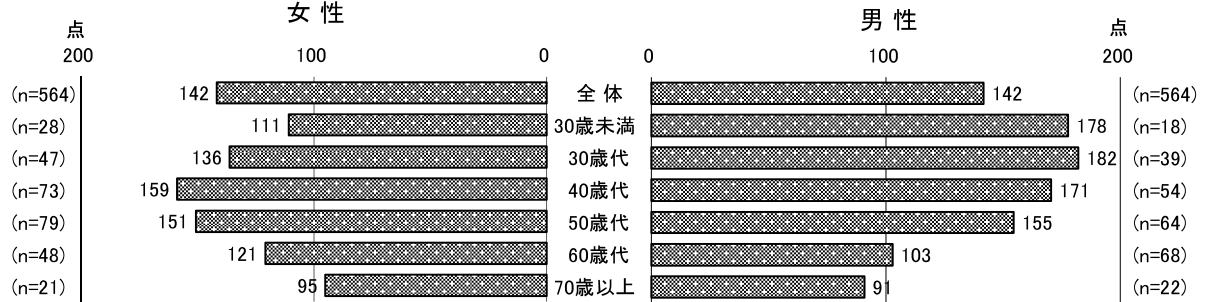


☒ ストレスを強く感じる ☐ ストレスを感じる
☐ ストレスはほとんど感じない ☒ 当てはまらない
☐ 無回答

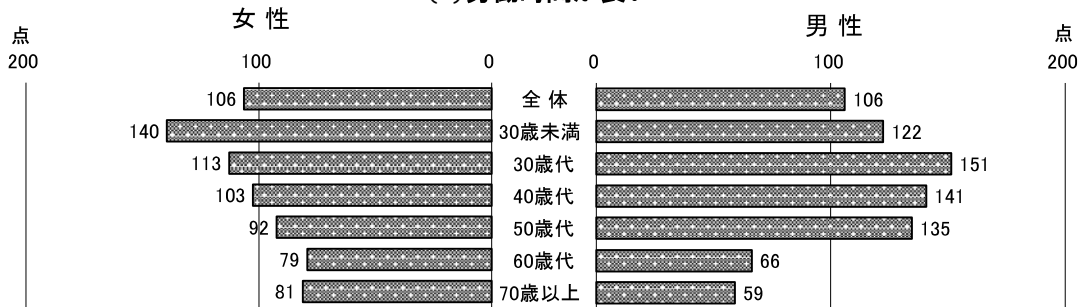
ストレス強度係数(性×年齢別)

「ストレスを強く感じる」「ストレスを感じる」「ストレスはほとんど感じない」への回答1%あたりにそれぞれ、3点、2点、1点を与え、これらを合計したものをグラフ化しました。数値が高いほどストレスを強く感じているとみることができます。

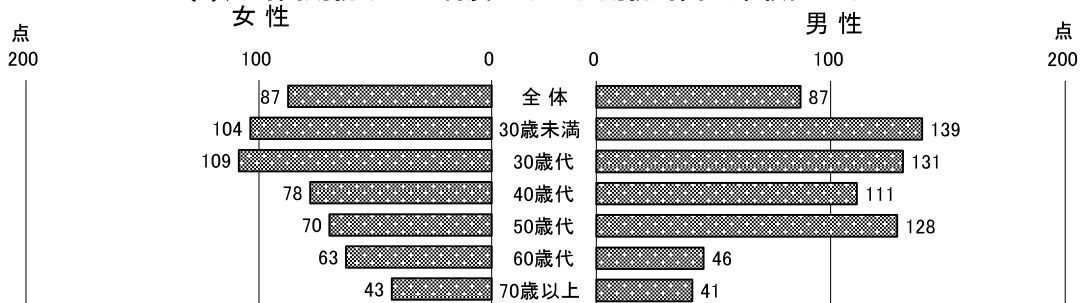
(1) 上司や部下、同僚との人間関係の悩み



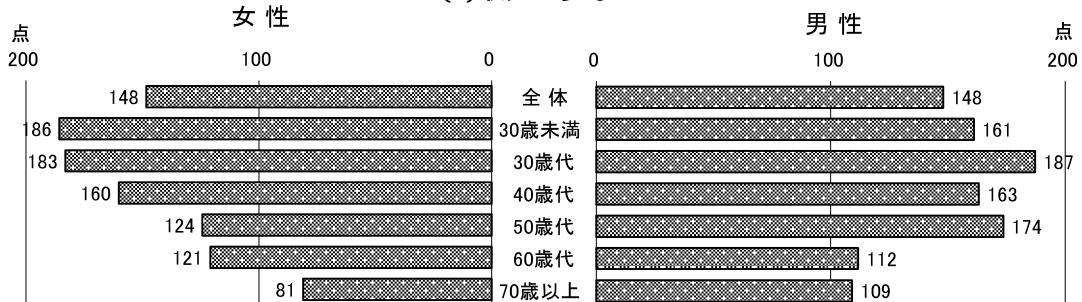
(2) 労働時間が長い

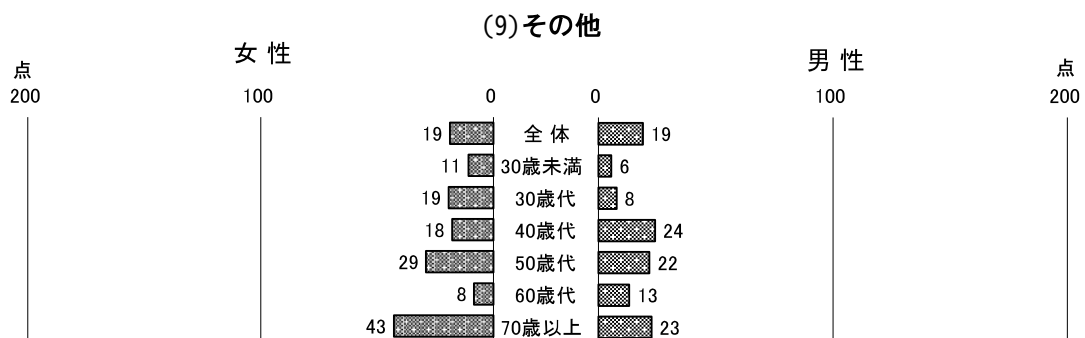
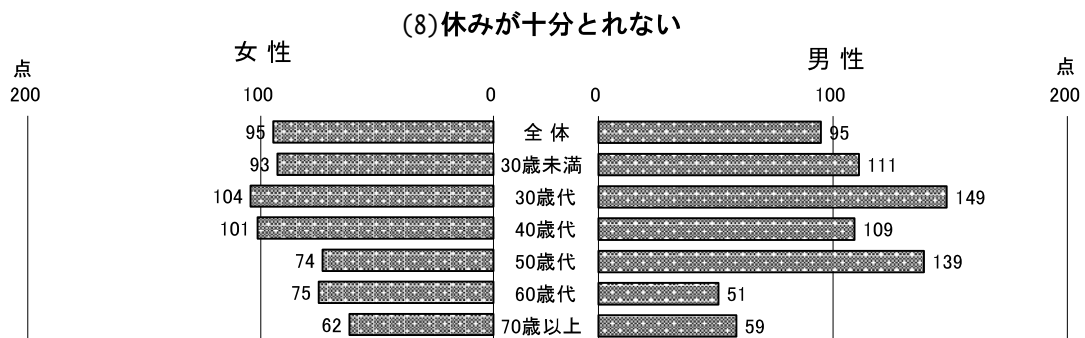
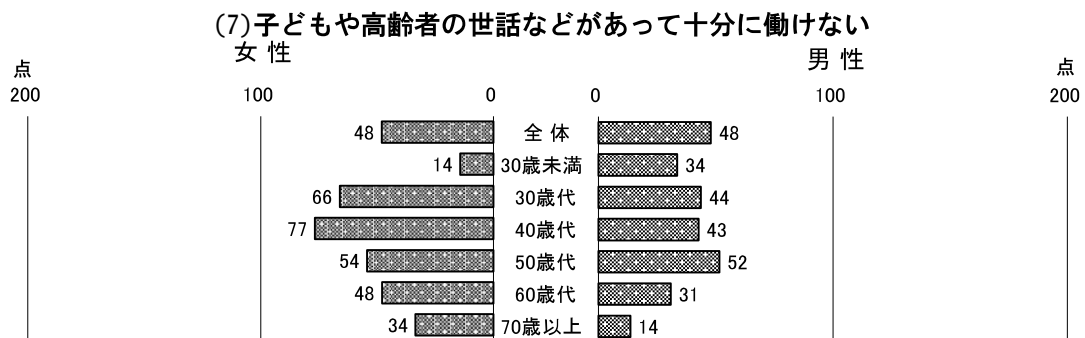
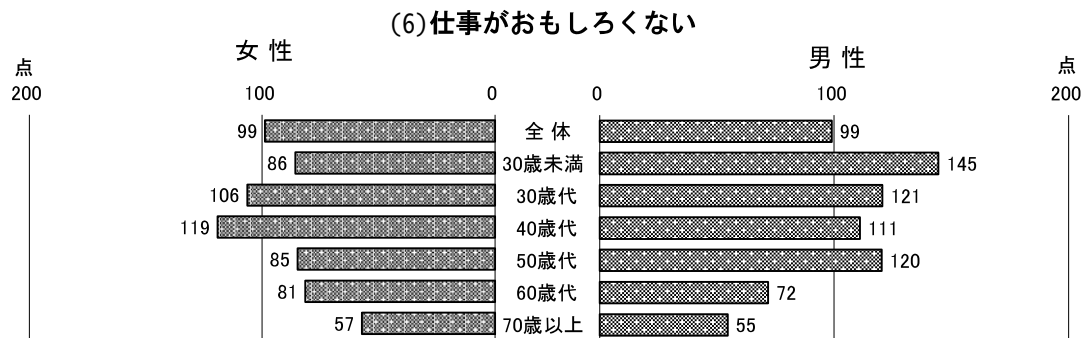
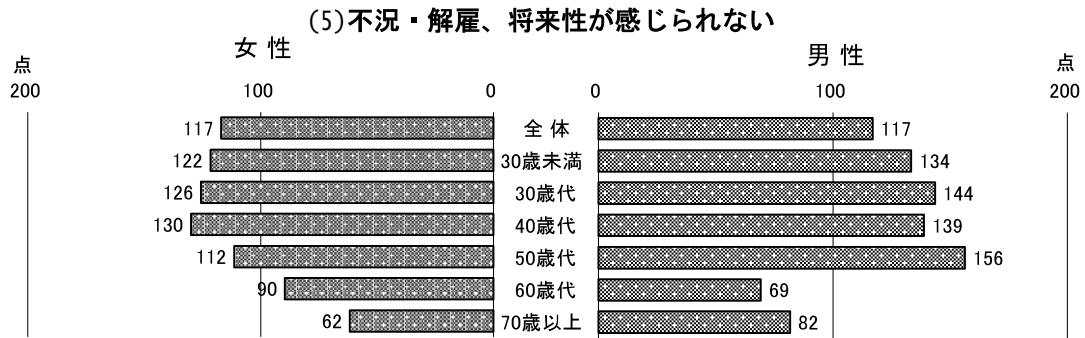


(3) 短時間勤務などの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない



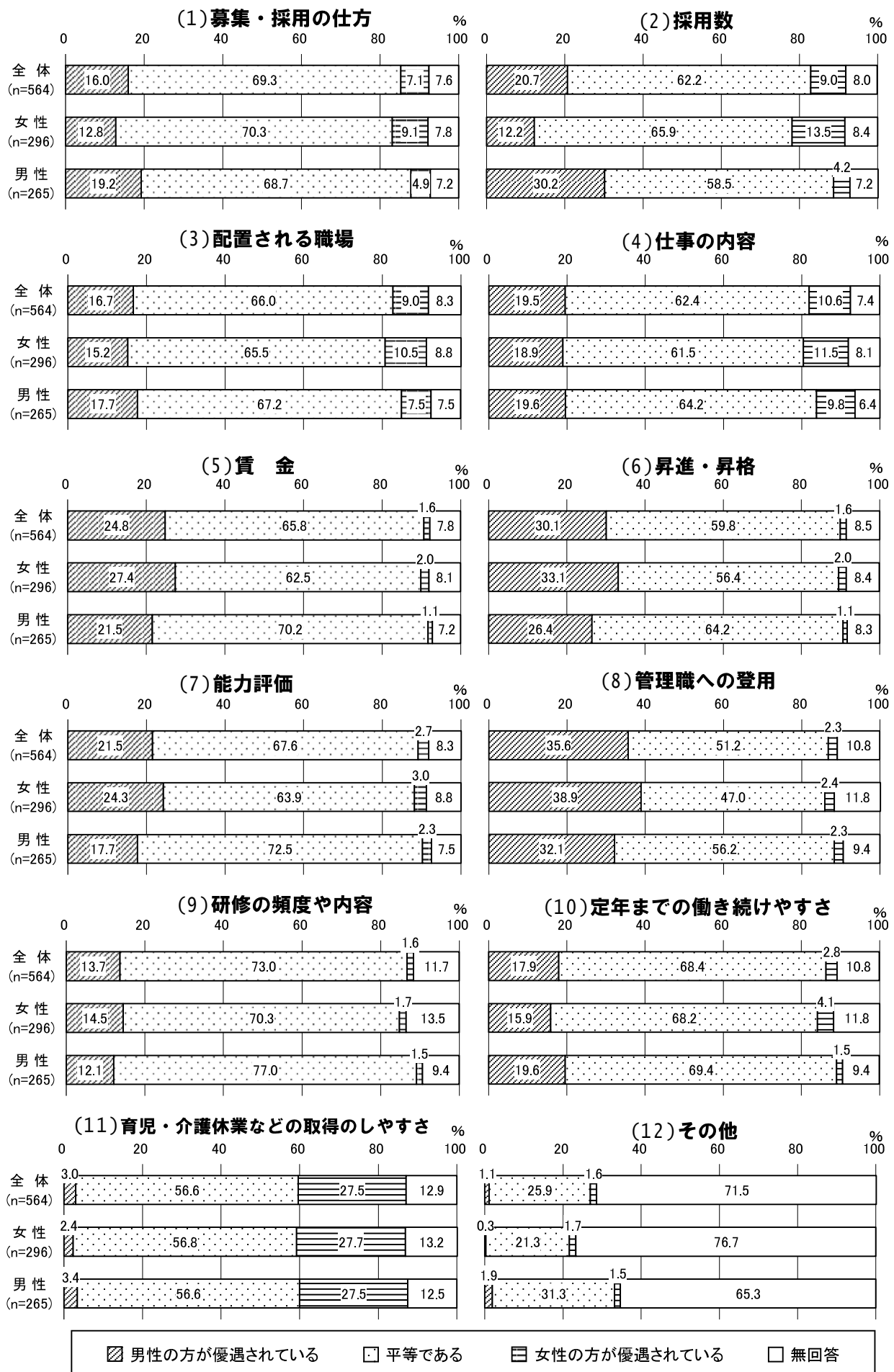
(4) 収入が少ない





**問9 あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。あなたの
実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。[(1)～(12)それぞれに○は1つ]**

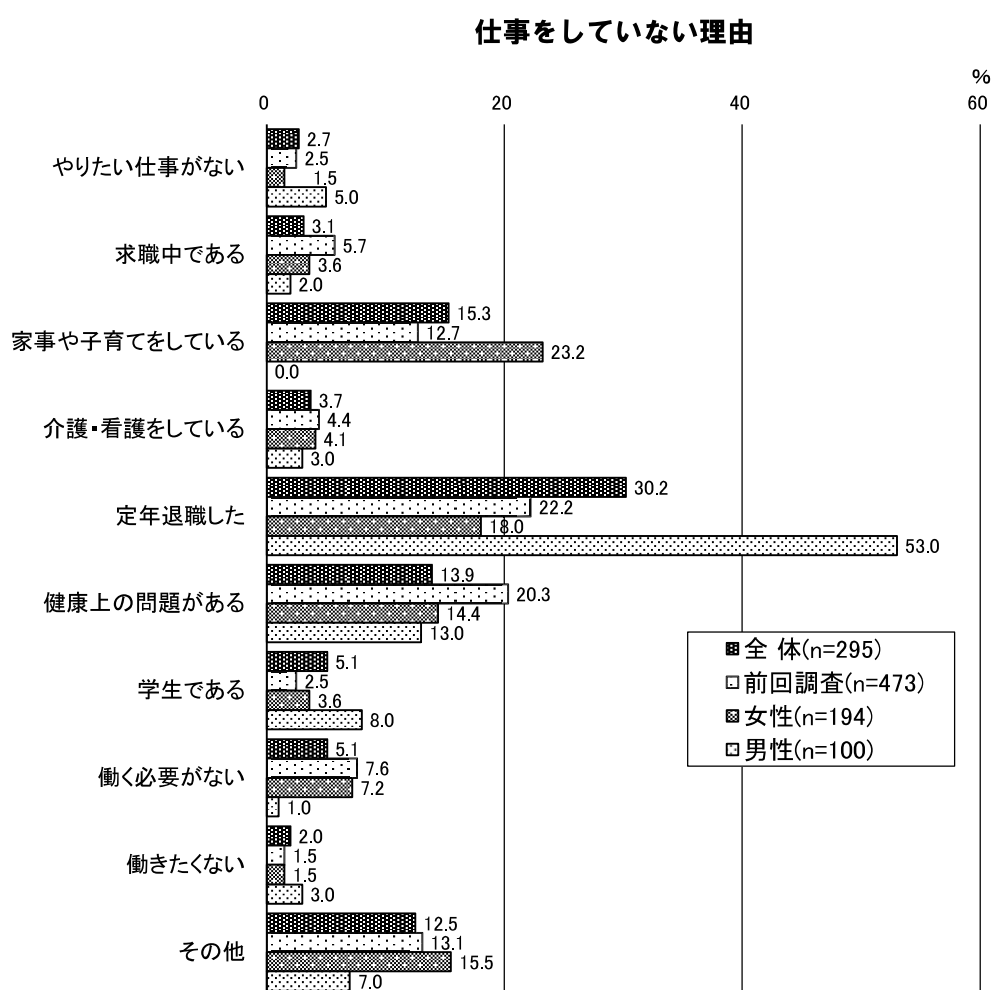
- 全体では、職場における性別による評価の差について、12 項目のうち、ほとんどで「男性の方が優遇されている」（男性優遇）の割合が「女性の方が優遇されている」を上回っています。「女性の方が優遇されている」（女性優遇）の方が高いのは、『(11)育児・介護休業などの取得のしやすさ』と『(12)その他』の2項目です。
- 男性優遇の割合が高いのは、『(8)管理職への登用(35.6%)』『(6)昇進・昇格(30.1%)』『(5)賃金(24.8%)』『(7)能力評価（業績評価・人事考課など）(21.5%)』などです。
- 性別でみると、男性優遇とみる割合を男女別に比較して、女性が男性より高い項目は、『(8)管理職への登用』『(6)昇進・昇格』『(7)能力評価』『(5)賃金』で6ポイント以上の差があります。これらは、女性からみて強く男性との格差を感じています。



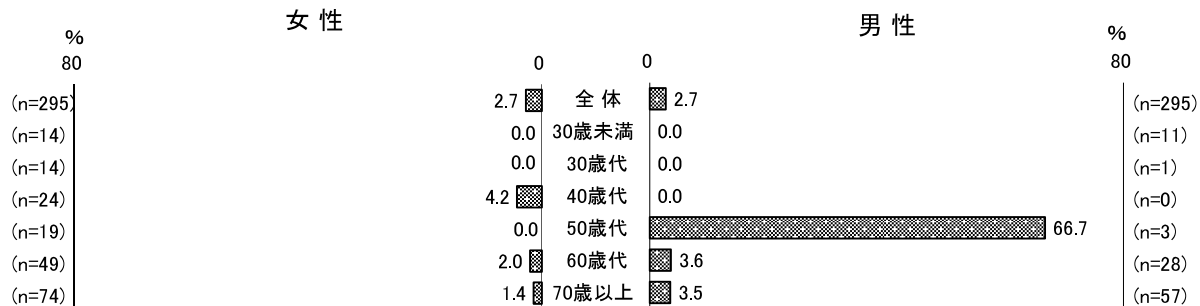
問10～問11は、お仕事を持っていない方（問6(1)で「5.」に答えた方）におたずねします。

問10 あなたが仕事をしていないのはどうしてですか。〔〇は1つ〕

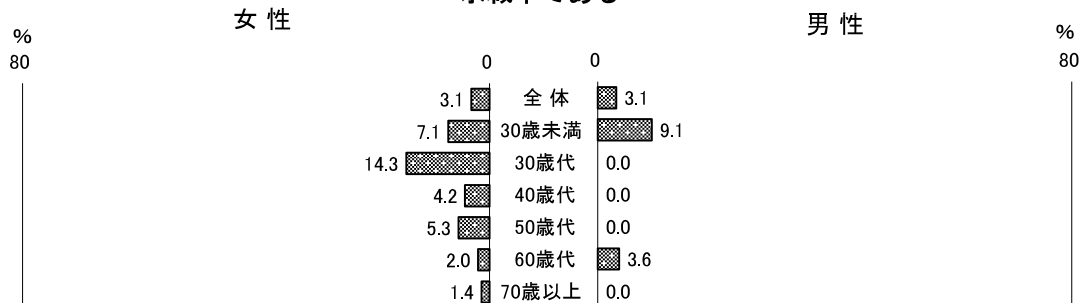
- ・性別でみると、仕事をしていない理由として、女性では「家事や子育てをしている」の割合が最も高くなっており、一方で男性は0.0%とまったくいない結果となっています。
- ・男性では「定年退職した」が過半数になっています。



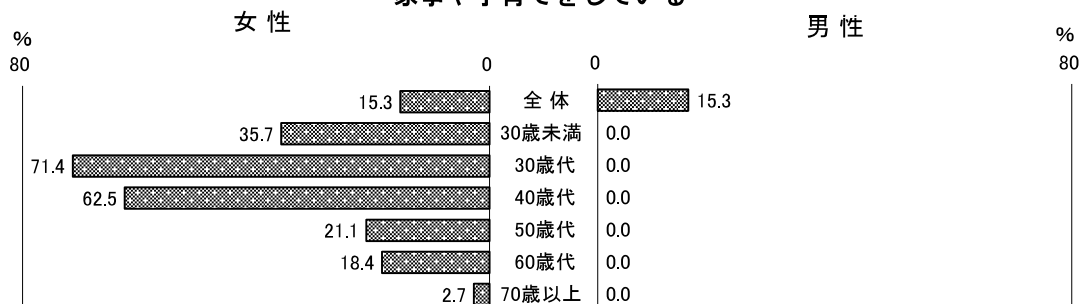
やりたい仕事がない



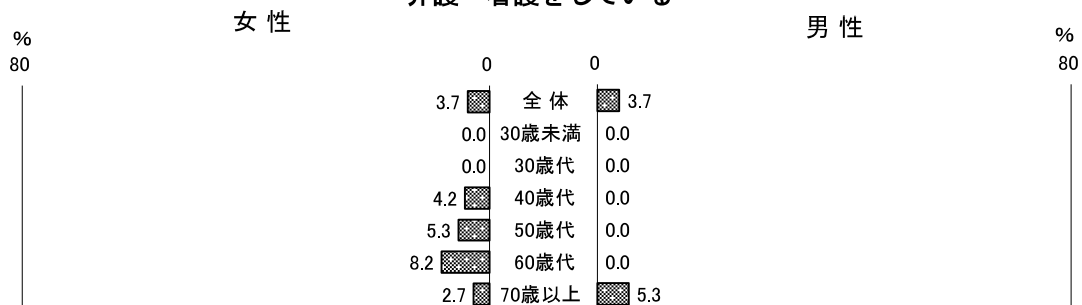
求職中である



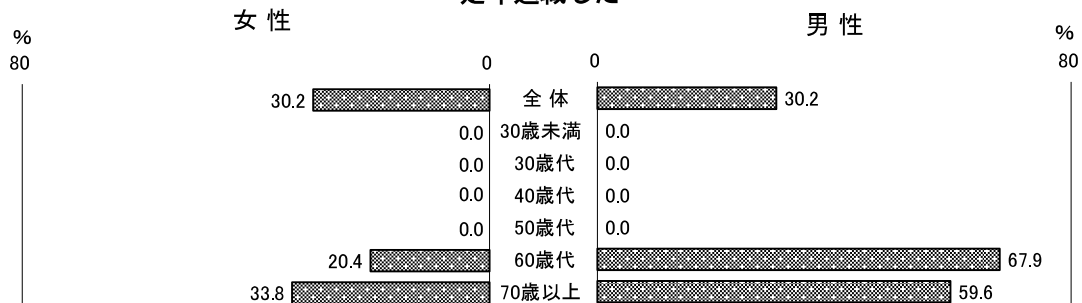
家事や子育てをしている

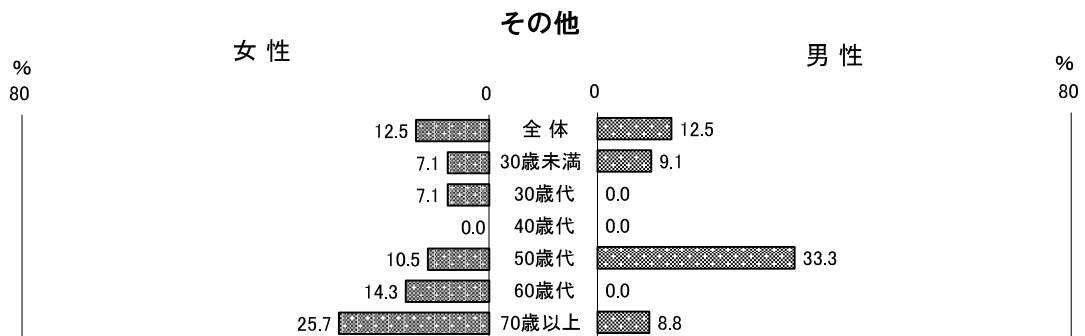
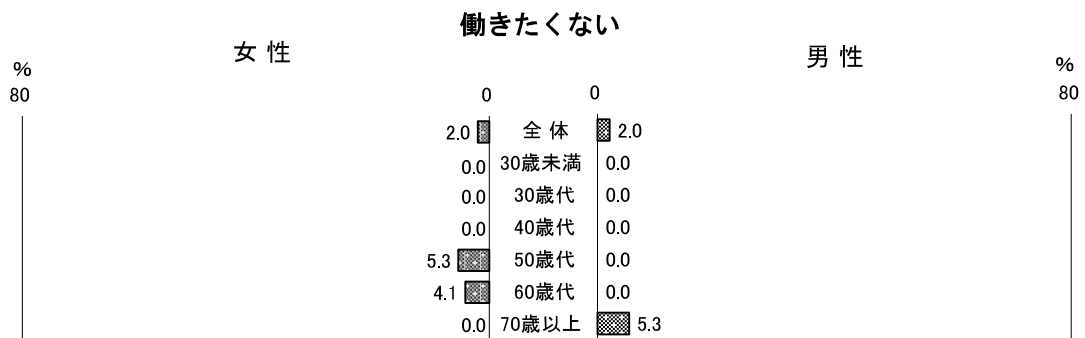
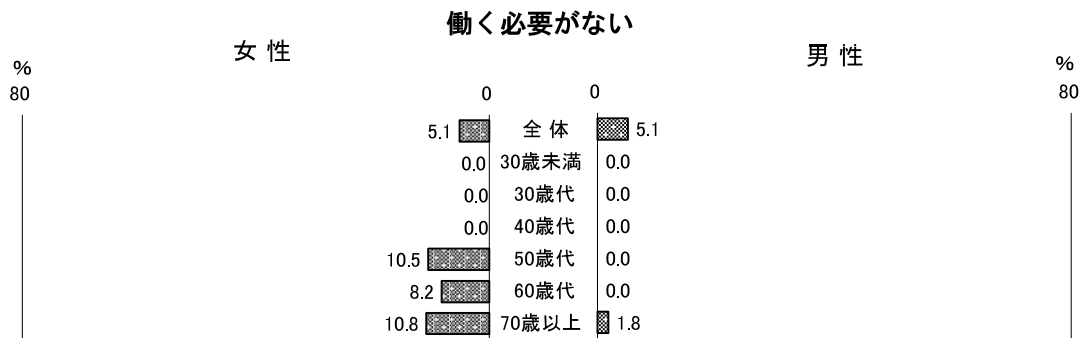
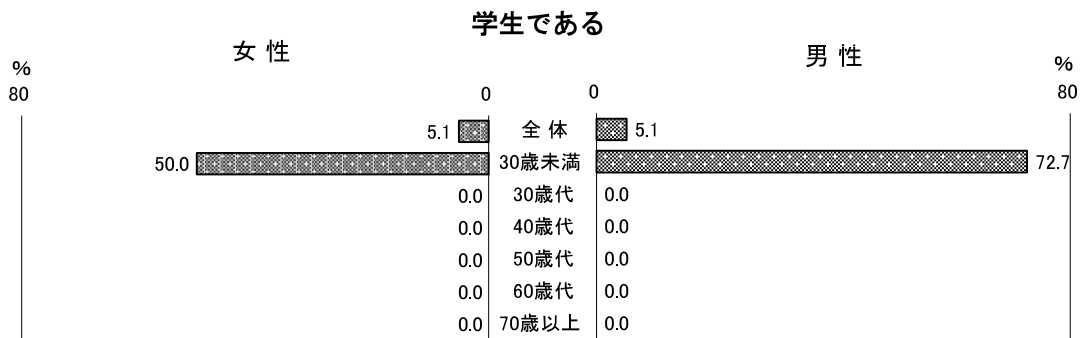
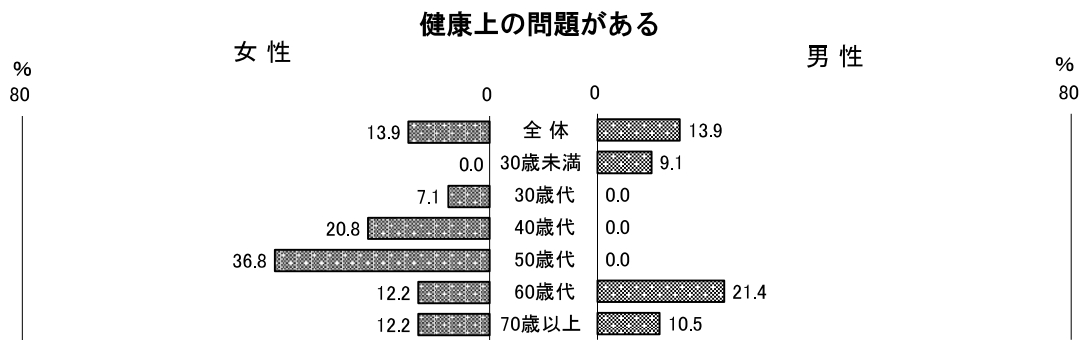


介護・看護をしている



定年退職した

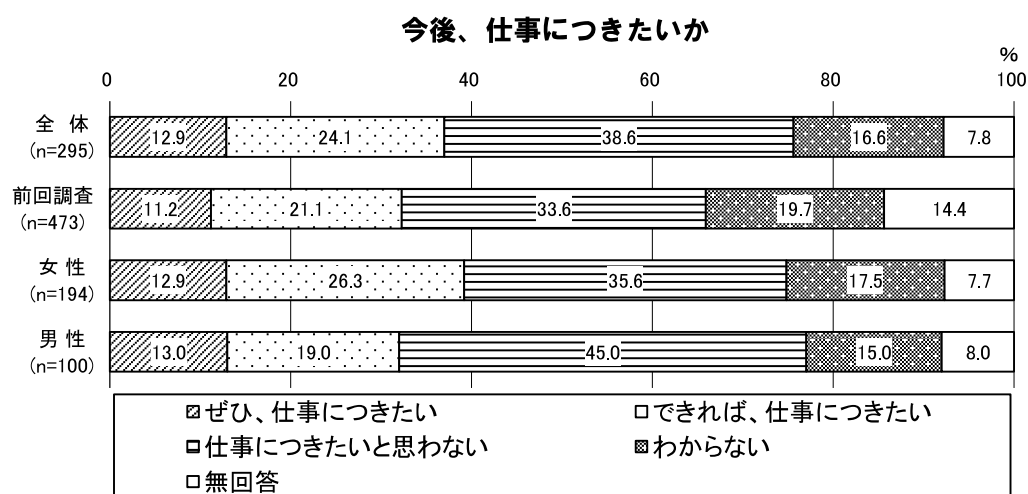




問 11 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。〔〇は1つ〕

- 全体では、今後の就労意向について、「仕事につきたいと思わない」(38.6%)、「できれば、仕事につきたい」(24.1%)、「ぜひ、仕事につきたい」(12.9%)などとなっています。
- 性別でみると、女性ではこの傾向に全体との大きな差はありません。男性では「仕事につきたいと思わない」が高いです。

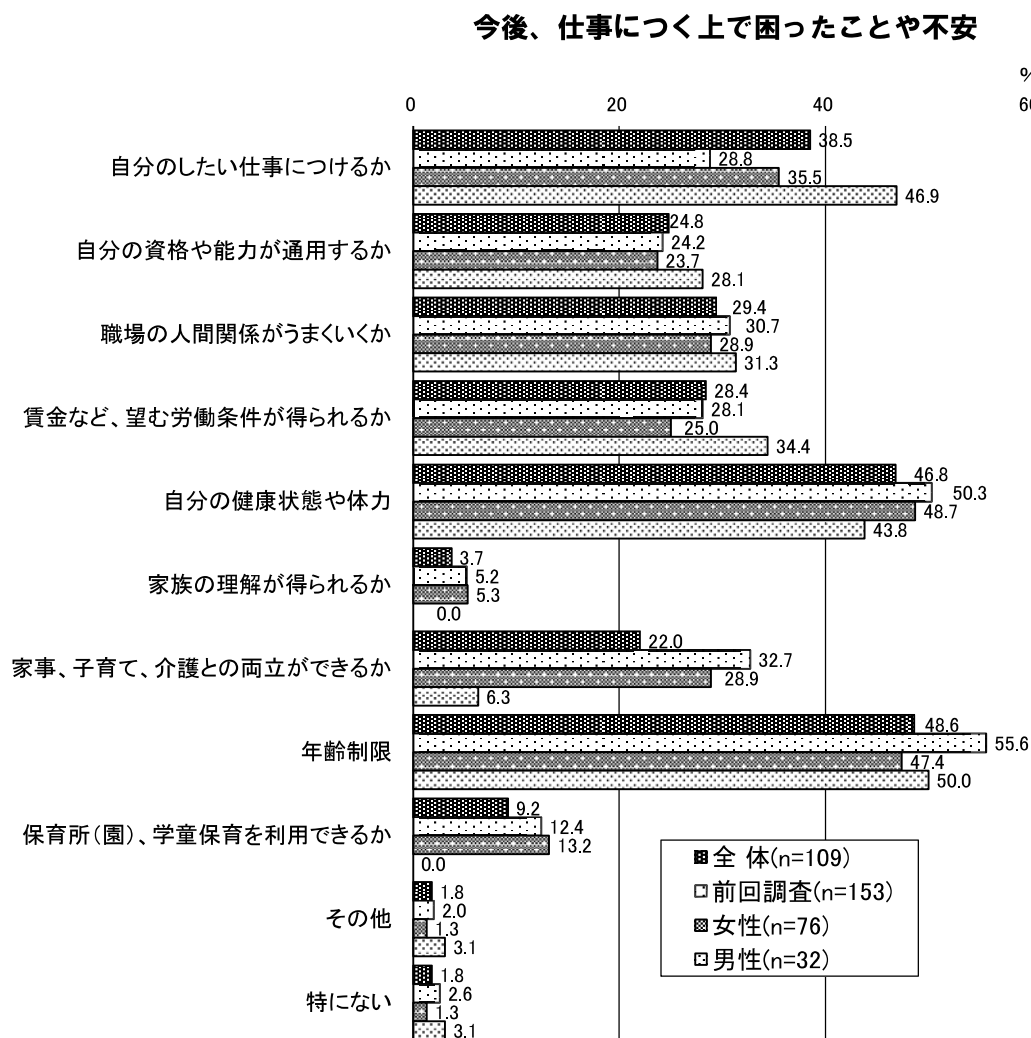
※ 問10より男性は「定年退職した」が53.0%を占めている点に注意



問 12 は、問 11 で「1. ぜひ、仕事につきたい」「2. できれば、仕事につきたい」のいずれかに答えた方におたずねします。

問 12 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。[○はいくつでも]

- 全体では、就労の際の不安としては、「年齢制限」(48.6%)、「自分の健康状態や体力」(46.8%)、「自分のしたい仕事につけるか」(38.5%)などが高いです。
- 前回調査と比較すると、「自分のしたい仕事につけるか」の割合が上がり、「年齢制限」「家事、子育て、介護との両立ができるか」の割合が下がりました。
- 性別でみると、女性では「自分の健康状態や体力」が第1位となっています。また「家事、子育て、介護との両立ができるか」が比較的高い割合です。

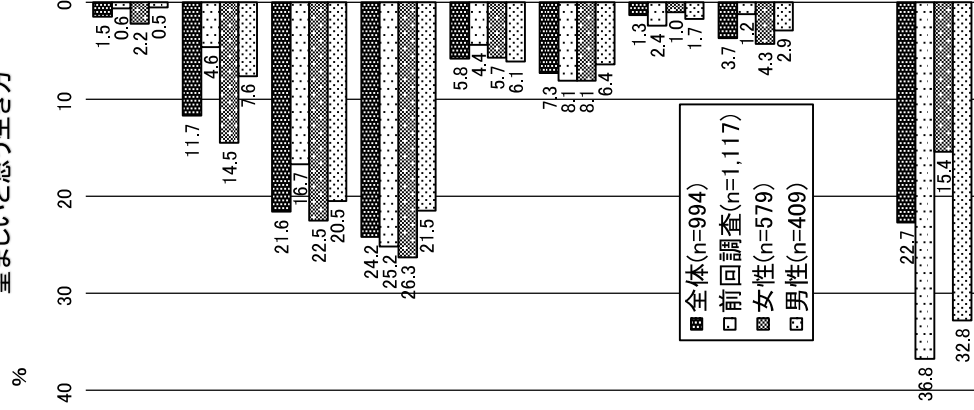


問 13 あなたは、女性の生き方について、(1)どのような生き方が望ましいと思われますか。(男性もお答えください。)また、(2)あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない男性は9を選択してください。)[(1)(2)それぞれに○は1つ]

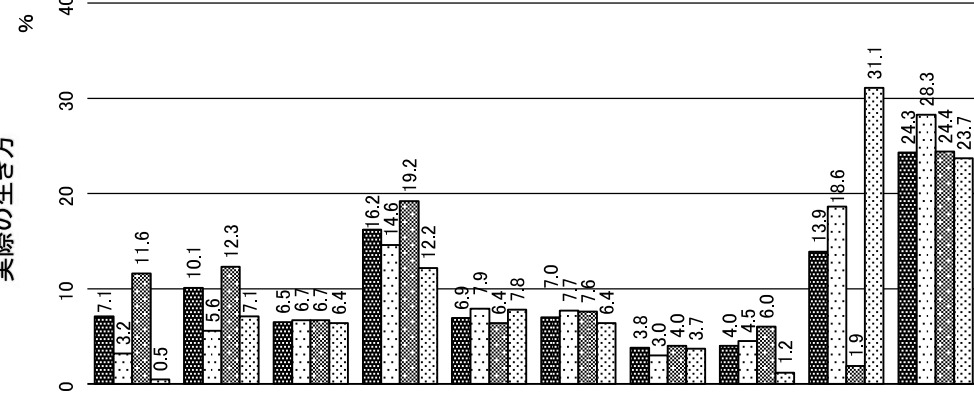
- 全体では、望ましいと思う生き方は、第1位「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができれば再就職する」(24.2%)、第2位「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」(21.6%)、第3位「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」(11.7%)などとなっています。
- 前回調査と比べると「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」と「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」は、ともに割合が上がりました。
- 性別でみると、男女ともに、第1位～第3位の順序は同じですが、いずれも女性の支持割合が高く、「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」は、女性の割合が男性より7ポイント高いです。
- 実際の生き方は、全体で、第1位「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができれば再就職する」(16.2%)、第2位「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」(10.1%)、第3位「結婚しないで、働き続ける」(7.1%)となっていますが、全体的に望ましいと思う生き方よりも割合が低くなっています。
- 性別でみると、男性の第2位は「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する」であり、「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」が第3位です。
- 望ましいと思う生き方と実際の生き方との関係をグラフにプロットすると、全体で望ましいと思う生き方で第1位であった「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができれば再就職する」は多くの層が望ましいと思っているのに対して、あまり叶えられていません。第2位の「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」への支持割合は性・年齢によって支持する割合の幅が広いですが、どの層もその希望が叶えられていません。

女性の生き方

望ましいと思う生き方



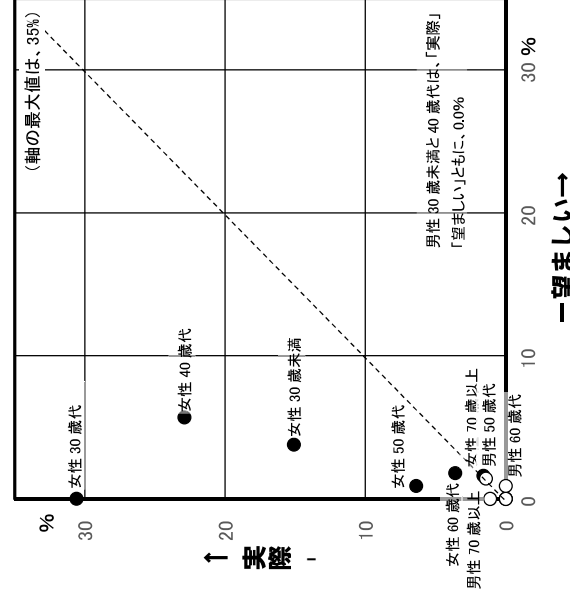
実際の生き方



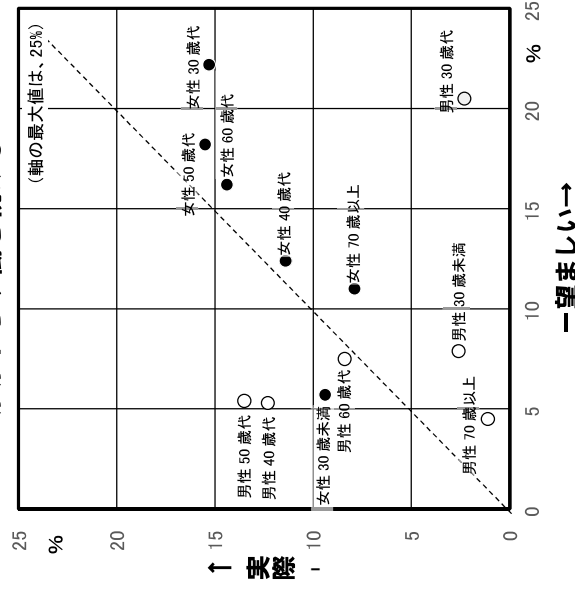
「望ましい」と「実際」の関係（性×年齢別）

「望ましい」の割合を横軸に、「実際」の割合を縦軸にとった座標に、各属性の数値をプロットしました。各点が45°の破線から離れるほどに「望ましい」と「実際」が乖離していることになります。具体的には、各点が斜線の右下に位置するほど理想に比べて実際の割合が小さいことを示し、斜線の左上に位置するほど理想に比べて実際の割合が大きいことを示します。

結婚しないで、働き続ける



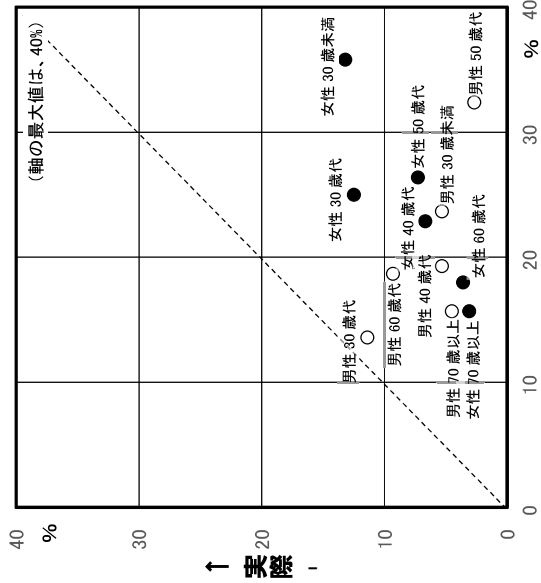
結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける



一望ましいい→

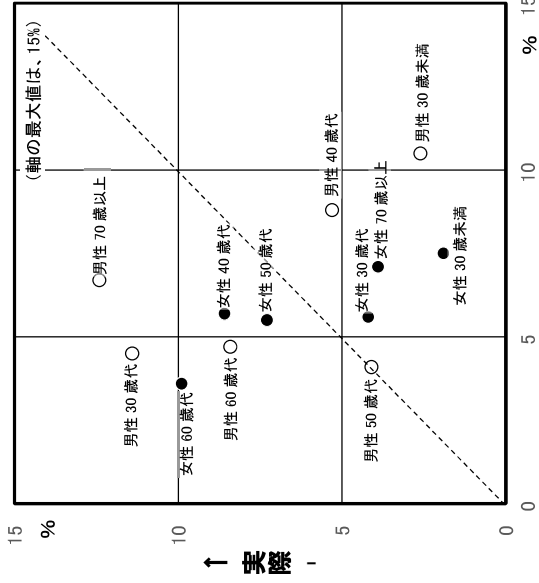
一望ましいい→

結婚し、出産したら育児休業した後、
職場に復帰する



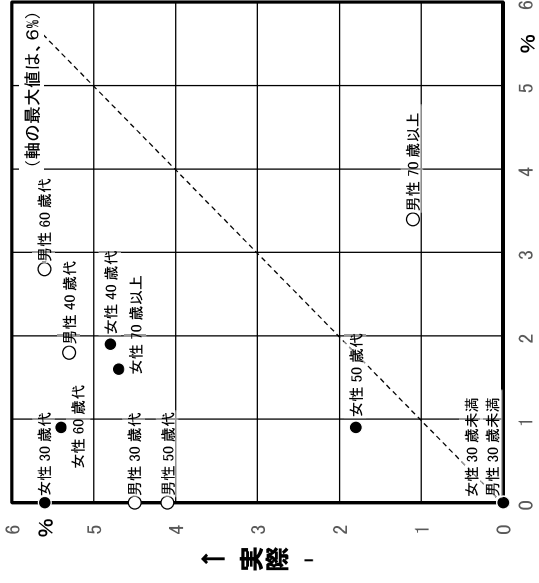
一望ましい→

結婚し、出産を機に退職し、家事・育
児に専念する



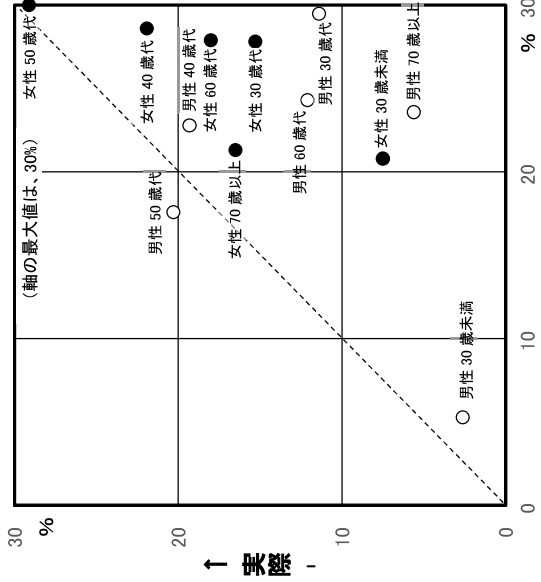
一望ましい→

就職せず、結婚・出産し、家事・育児
に専念する



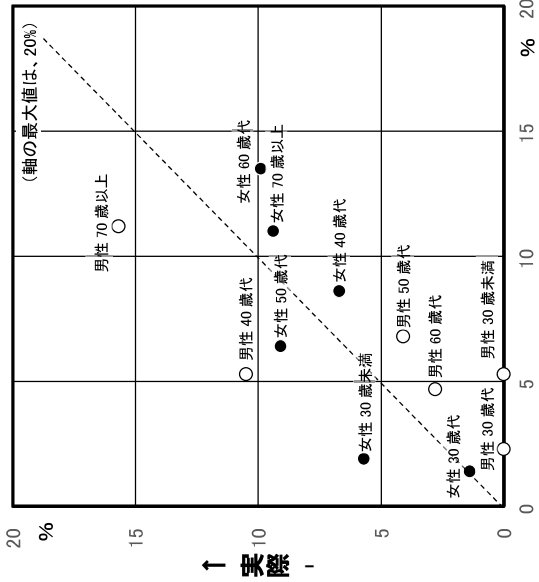
一望ましい→

結婚し、出産を機に退職し、家事・育
児に余裕ができれば再就職する



一望ましい→

結婚し、出産をし、家事・育児に余裕
ができてから初めて就職する



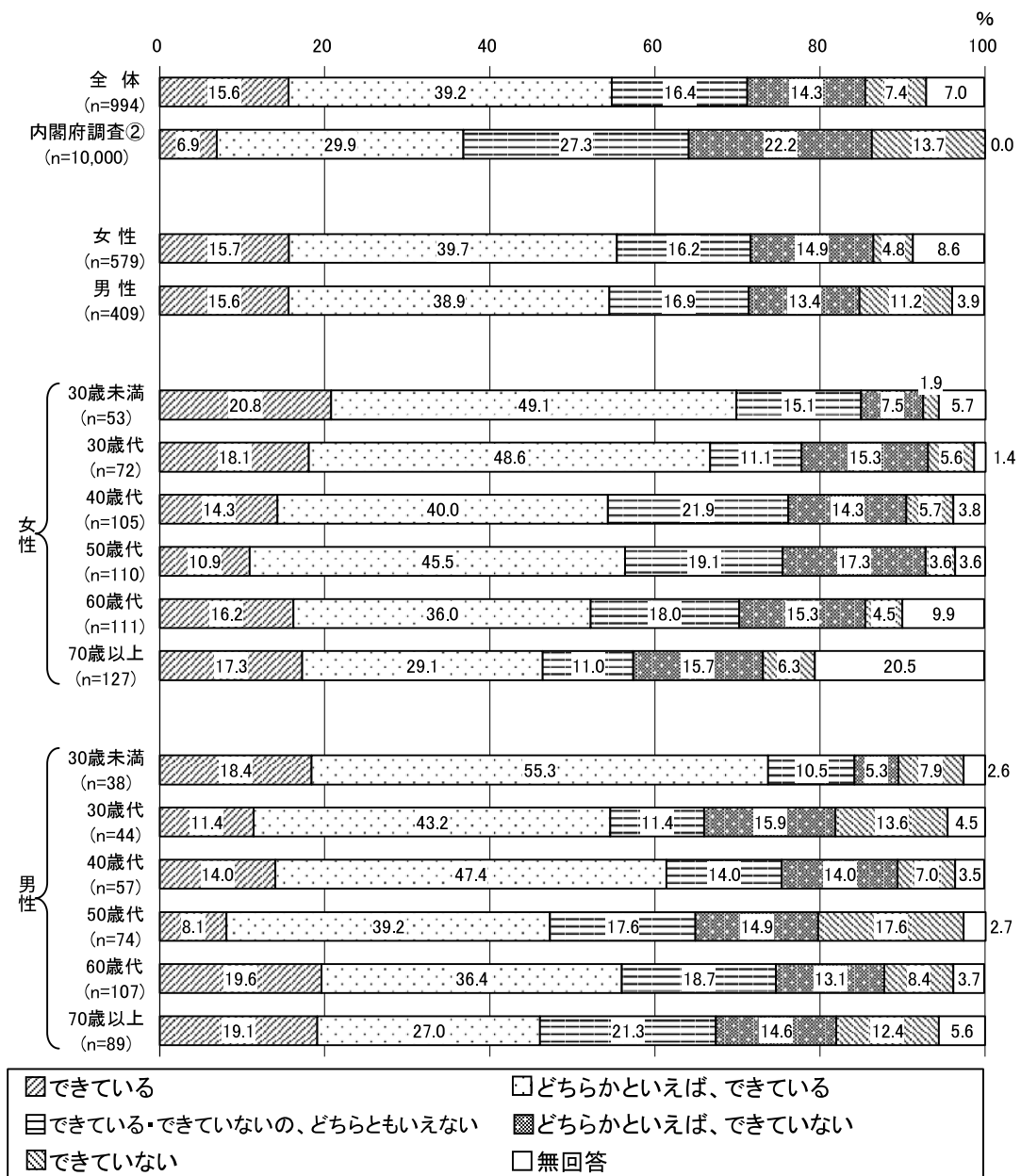
一望ましい→

仕事と生活の調和について

問 14 あなたは、仕事や家庭、地域活動、趣味・娯楽などについて、自分が希望する時間の使い方ができていると思いますか。〔〇は１つ〕

- 全体では、仕事と趣味の両立について、「できている」(15.6%)、「どちらかといえば、できている」(39.2%)で、合計 54.8% の回答者が概ねできているとの評価をしています。また、「どちらかといえば、できていない」は 14.3%、「できていない」は 7.4% で合計 21.7% の回答者が概ねできていないとの評価です。
- 内閣府調査②と比較すると「できている」が高く、「できていない」が低いです。
- 性別・年齢別にみると、男性では「できていない」が 11.2% と高く、特に男性 50 歳代では 17.6% となっています。「できている」の最も高いのは女性 30 歳未満で、男性は 60 歳以上を除くと男性 30 歳未満が高いです。

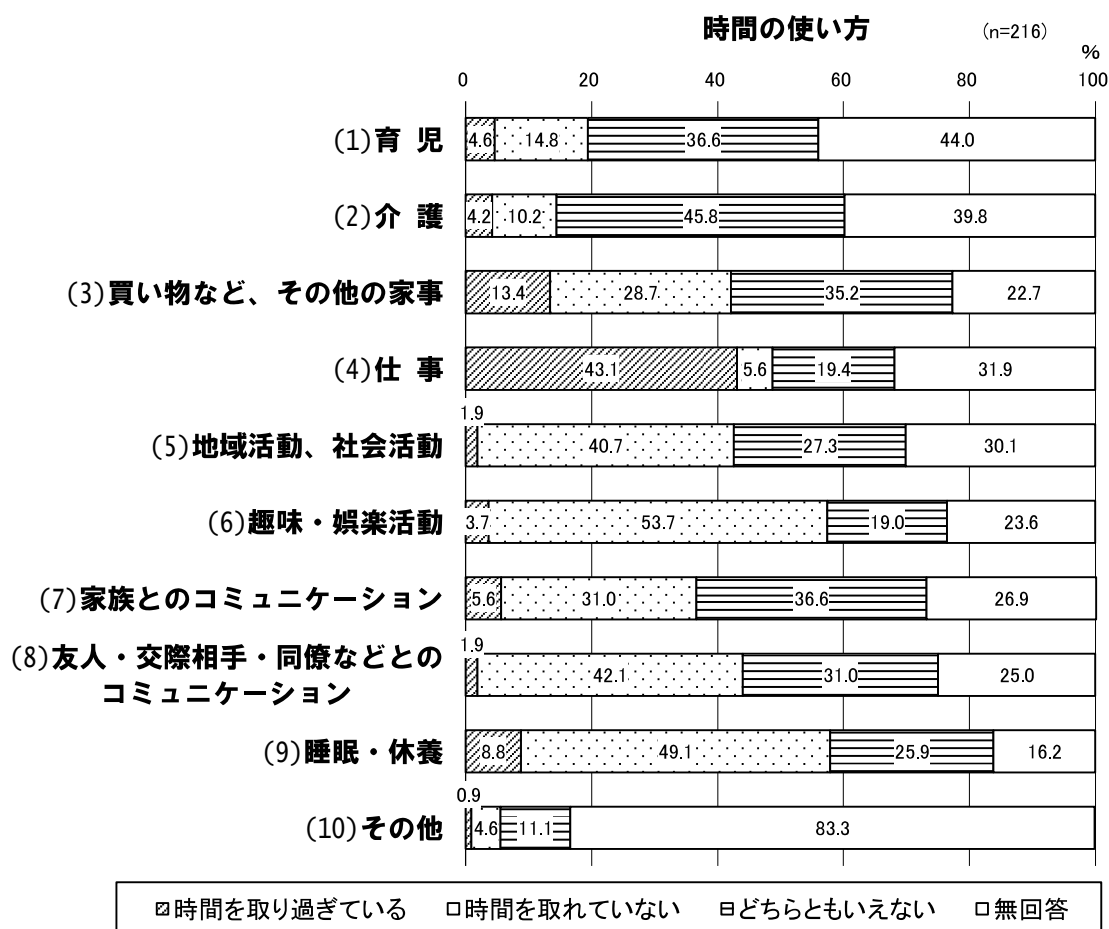
希望する時間の使い方ができているか



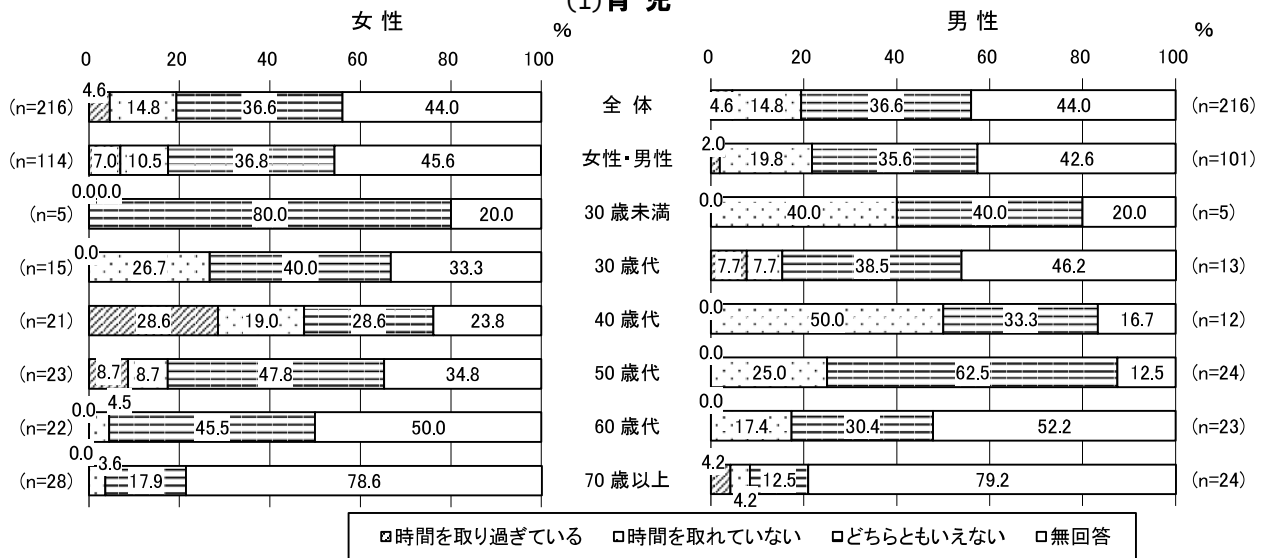
問 15 は、問 14 で「4. どちらかといえば、できていない」「5. できていない」のいずれかに答えた方におたずねします。

問 15 あなたは、下の(1)～(10)の活動について、どのような時間の使い方をしていますか。
〔(1)～(10)それぞれに○は1つ〕

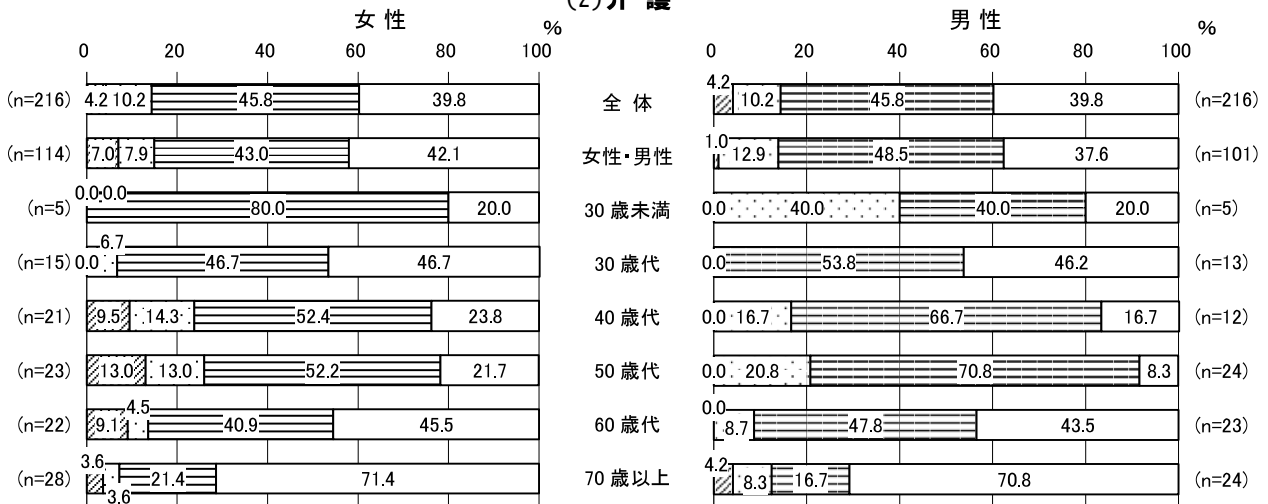
- ・全体では、時間の使い方として、「時間を取り過ぎている」割合が高いのは、『(4)仕事』で43.1%とたいへん高いです。「時間を取れていない」のは、『(6)趣味・娯楽活動』の53.7%が最も高く、これに『(9)睡眠・休養(49.1%)』『(8)友人・交際相手・同僚などとのコミュニケーション(42.1%)』が続きます。
- ・性別・年齢別に、「時間を取り過ぎている」割合と「時間を取れていない」割合の差をみると、『(4)仕事』では男性の50歳代や30歳代で高い値を示しています。『(2)介護』や『(1)育児』では女性30歳代や男性30歳未満で「時間がとれていない」の割合が高いです。『(7)家族とのコミュニケーション』のほか、『(6)趣味・娯楽活動』『(8)友人・交際相手・同僚などとのコミュニケーション』『(9)睡眠・休養』では多くの層で値が低く、時間の不足感があらわれています。



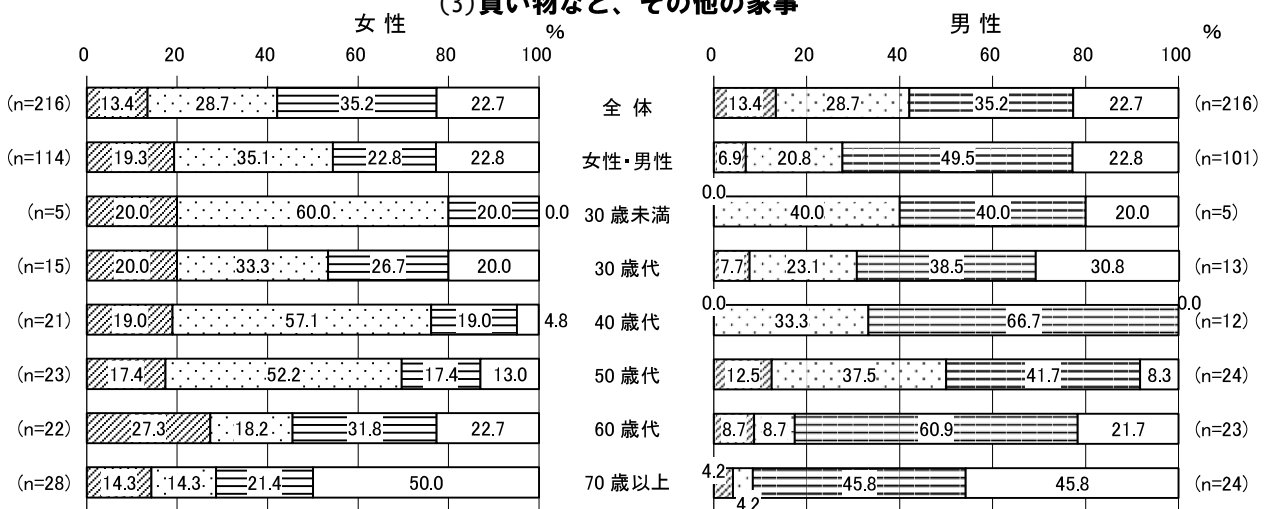
(1) 育児



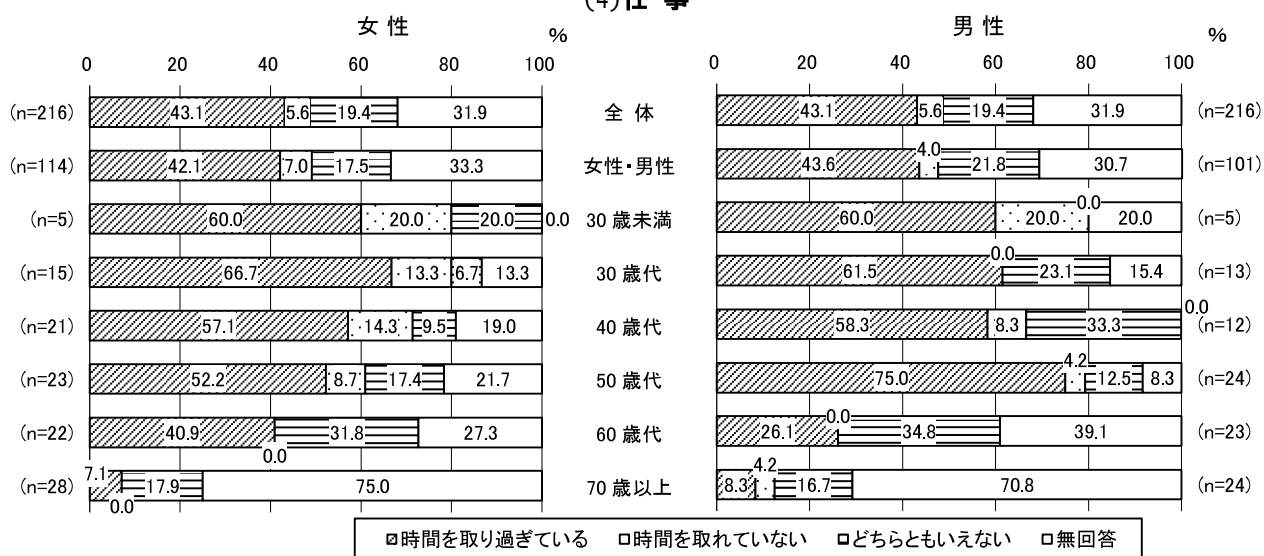
(2) 介護



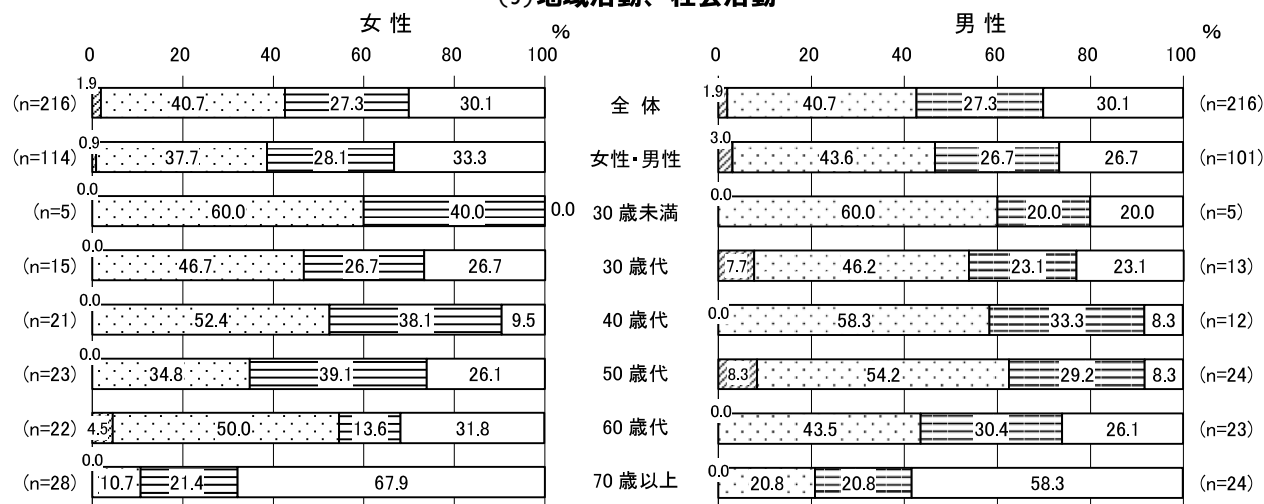
(3) 買い物など、その他の家事



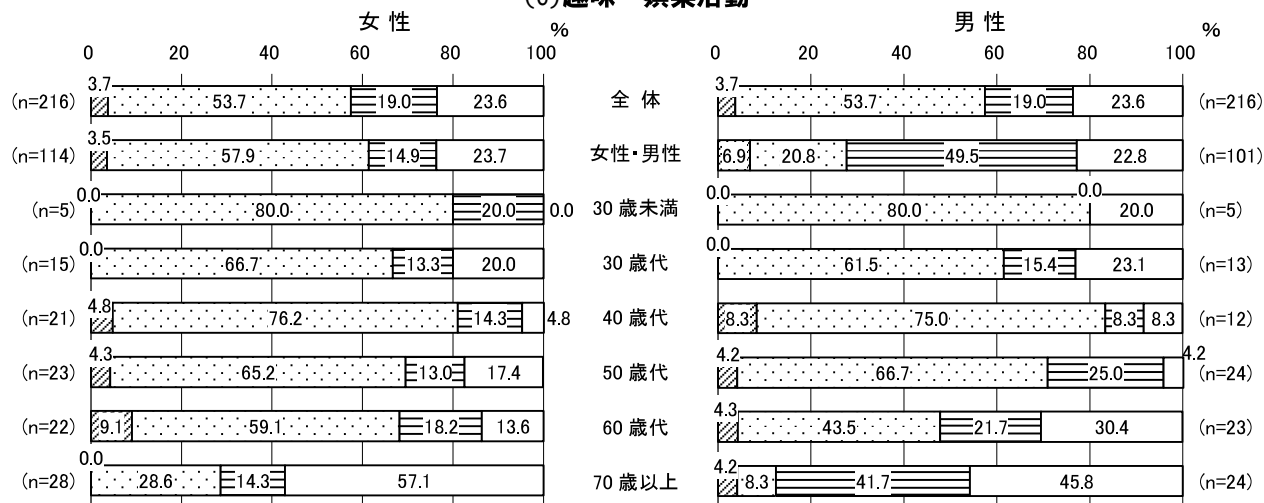
(4) 仕事



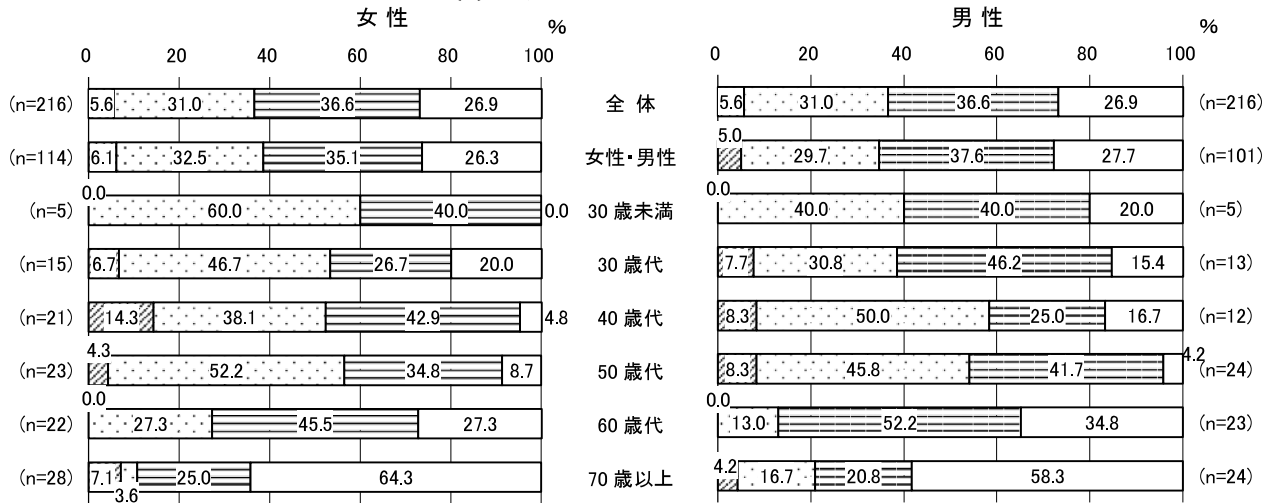
(5) 地域活動、社会活動



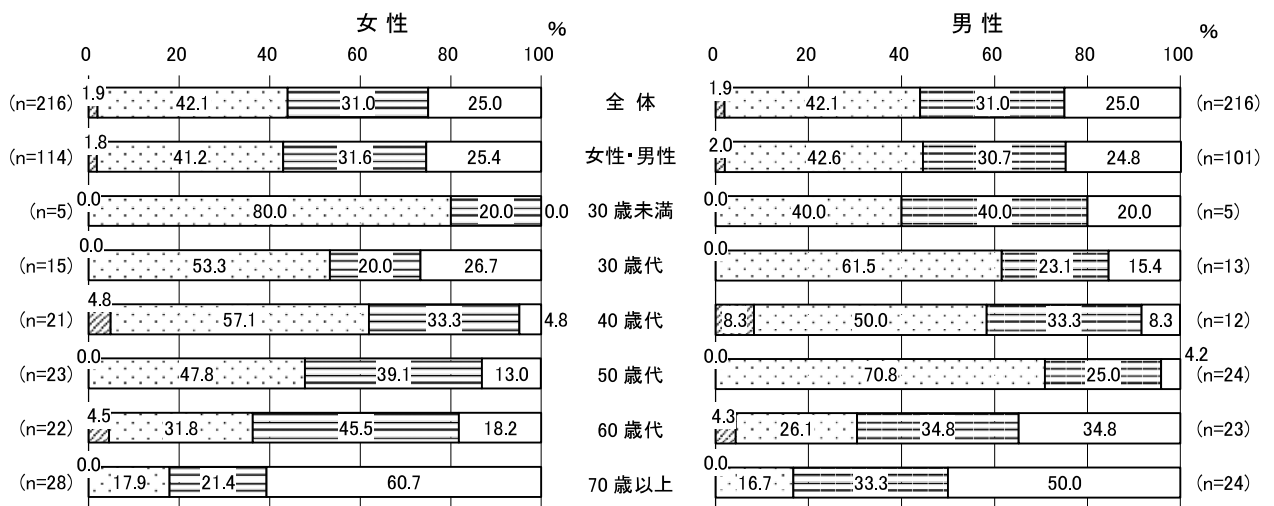
(6) 趣味・娯楽活動



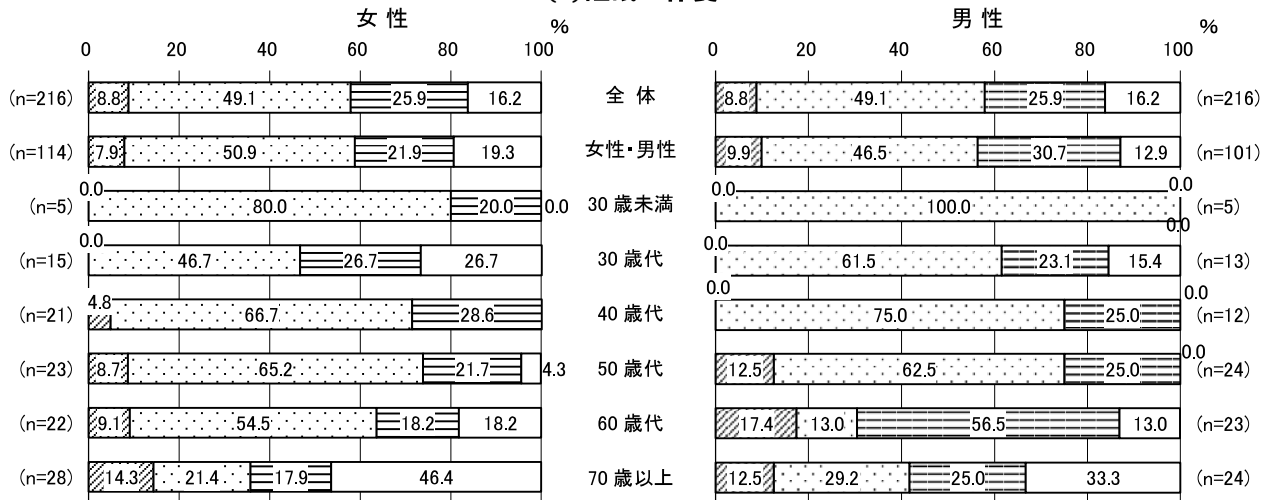
(7) 家族とのコミュニケーション



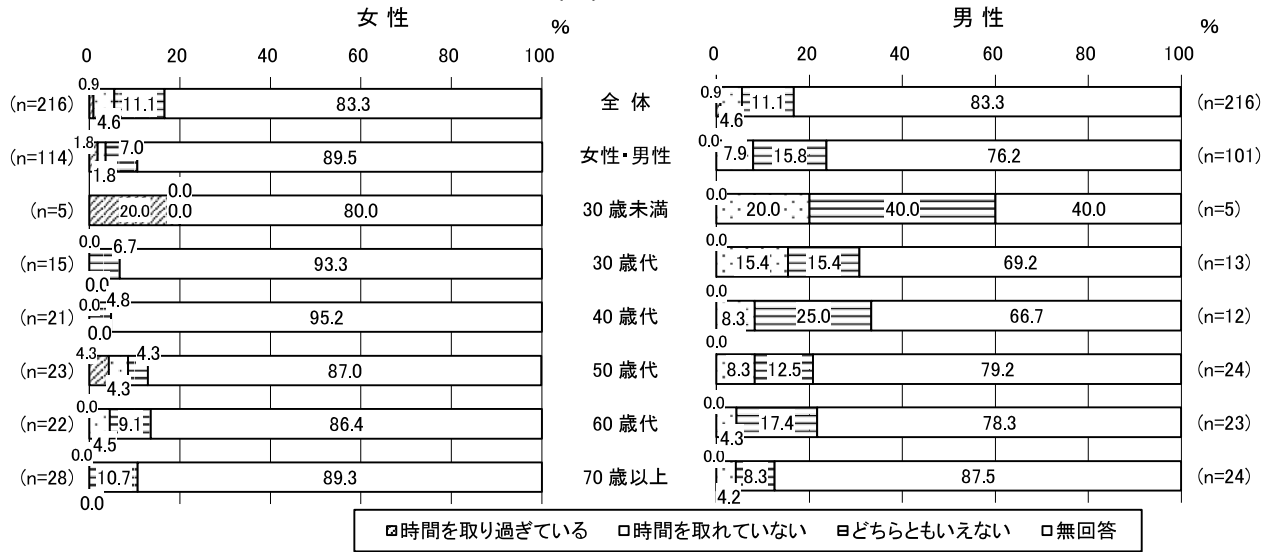
(8) 友人・交際相手・同僚などとのコミュニケーション



(9) 睡眠・休養



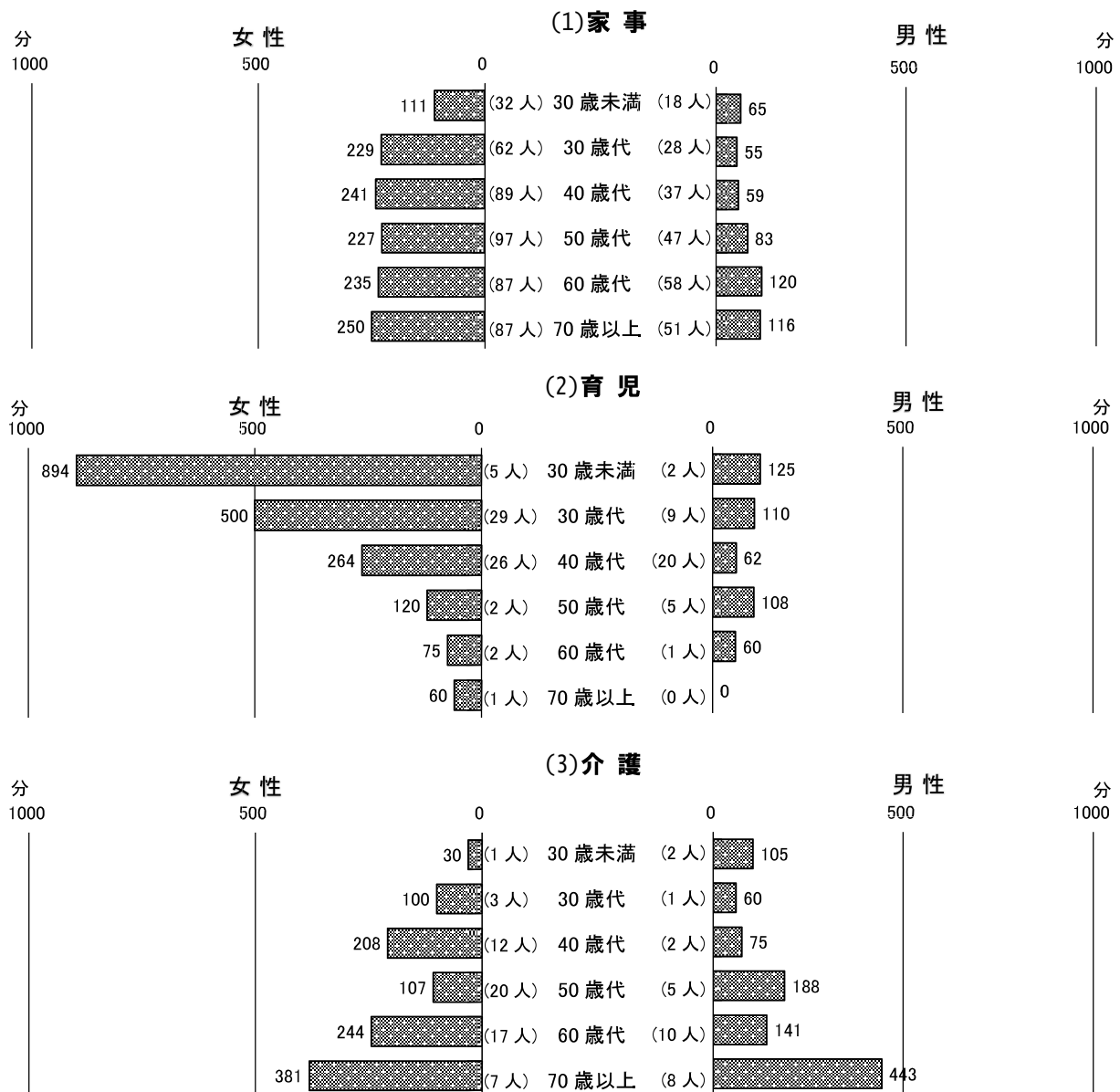
(10) その他



問 16 ふだんの平日に、あなたは、家事・育児・介護について、どれぐらいの時間を使っていますか。[]内に数字（時間・分）を記入してください]

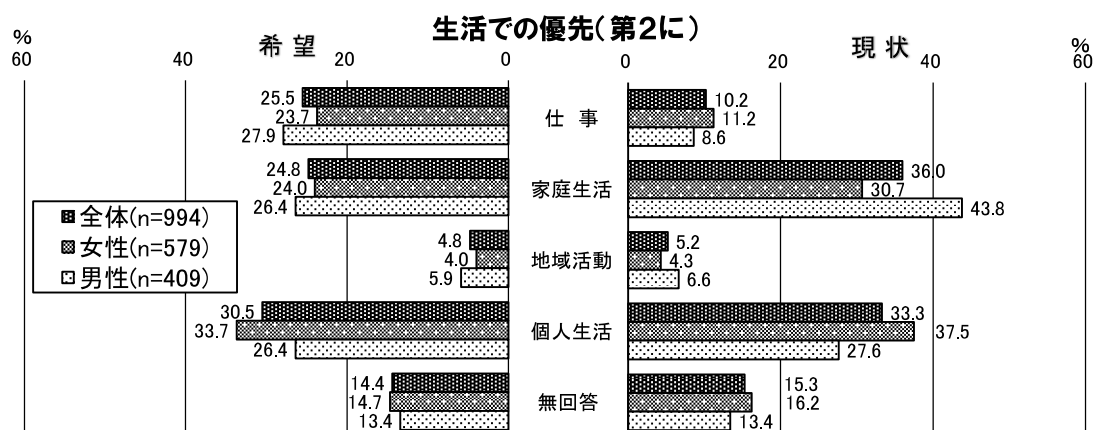
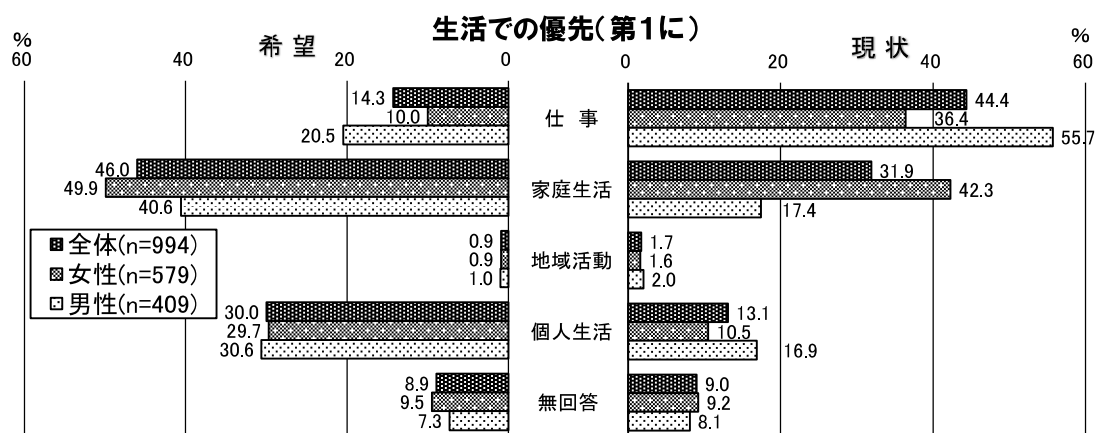
- ・性別・年齢別に、平日の時間の使い方について使っている時間の平均値をみると、『(1)家事』については、女性の30歳以上では200分台の前半（4時間近く～4時間以上）であり、男性では60歳代の120分（2時間）が最も多いです。
- ・『(2)育児』については、女性30歳未満の894分（15時間弱）が際立って高く、40歳代までは4時間以上を育児に費やしています。男性は30歳未満の125分（2時間強）が最も多いです。
- ・『(3)介護』では、男女ともに70歳以上で6時間以上を費やしています。

時間数の集計は、「時間」「分ぐらい」のらんに、ゼロ以外の数字を記入しているものを対象としています。
(2)育児については、問5で「同居している12歳以下のお子さんがいる」とした回答者を対象としています



問 17 あなたは、生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人生活」のどれを優先していますか。(1)あなたの希望、と(2)あなたの現状（現実）について、1番と2番をお答えください。[]内に数字を記入してください

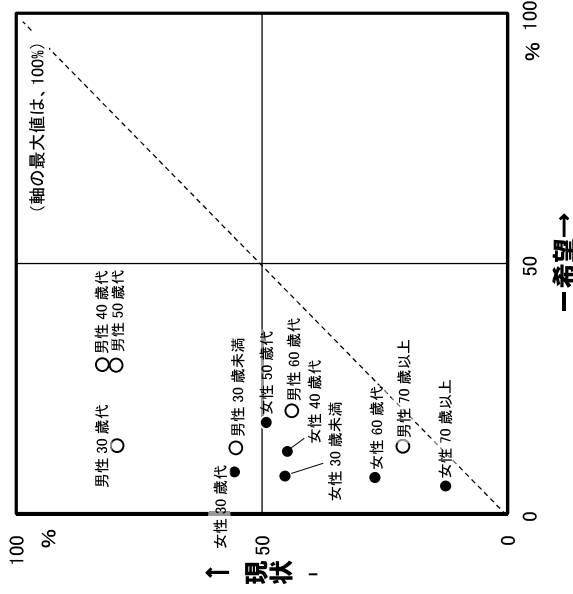
- 全体で、第1の優先度では、希望は、家庭生活(46.0%)>個人生活(30.0%)>仕事(14.3%)の順ですが、現状は、仕事(44.4%)>家庭生活(31.9%)>個人生活(13.1%)と、現実の生活では仕事が最優先されています。この差は、女性よりも男性がより大きくなっています。
- 地域活動については、希望・現状ともにその割合は低いです。
- 性別・年齢別にみると、仕事では男性の30歳代～50歳代が斜線から大きく左上に離れており、現実の仕事のウェイトが非常に高いことを示しています。この男性30歳代～50歳代の層は家庭生活のグラフでは、逆に斜線の右下に位置しており、望む家庭生活を十分得られていないことがわかります。女性の30歳代～50歳代においても同様の傾向がありますが、男性ほどに希望と現状のギャップは大きくありません。
- 男女30歳未満の若い層では、個人生活を求める割合が高くなっています。
- 男性の60歳以上や女性70歳以上の高齢層では、地域活動への希望が他の年代に比べて高いです。



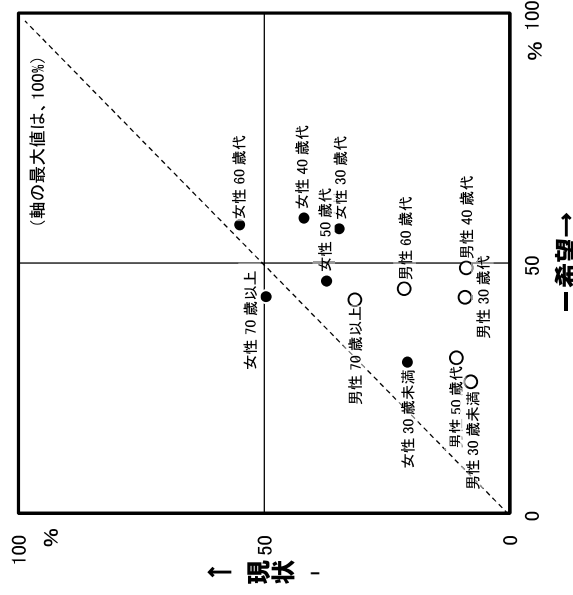
「希望」と「現状」の関係（性×年齢別）

「希望」の割合を横軸に、「現状」の割合を縦軸にとった座標に、各属性の数値をプロットしました。各点が 45° の破線から離れるほどに「希望」と「現状」が乖離していることになります。具体的には、各点が斜線の右下に位置するほど希望に比べて現状の割合が小さいことを示し、左上に位置するほど、希望に比べて現状の割合が大きいことを示します。

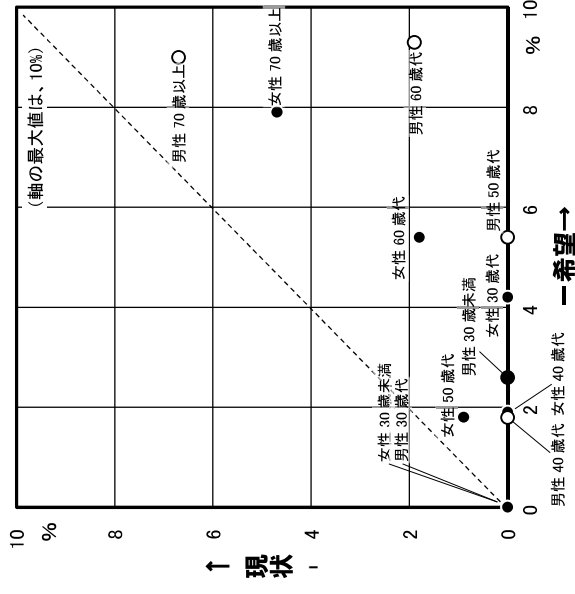
仕事（第1に）



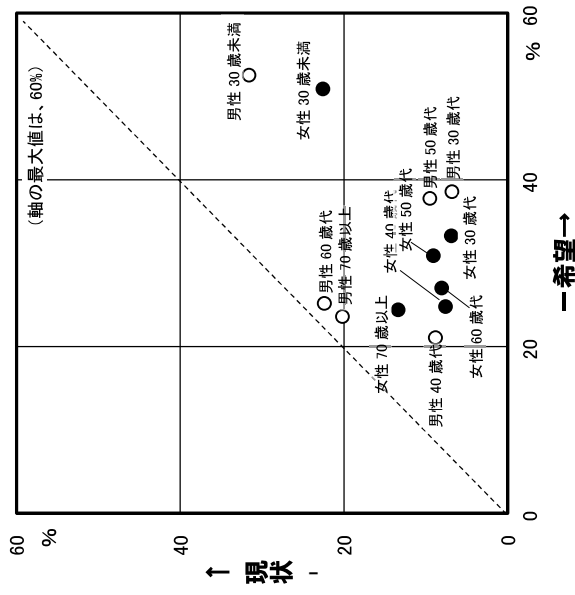
家庭生活（第1に）



地域活動（第1に）

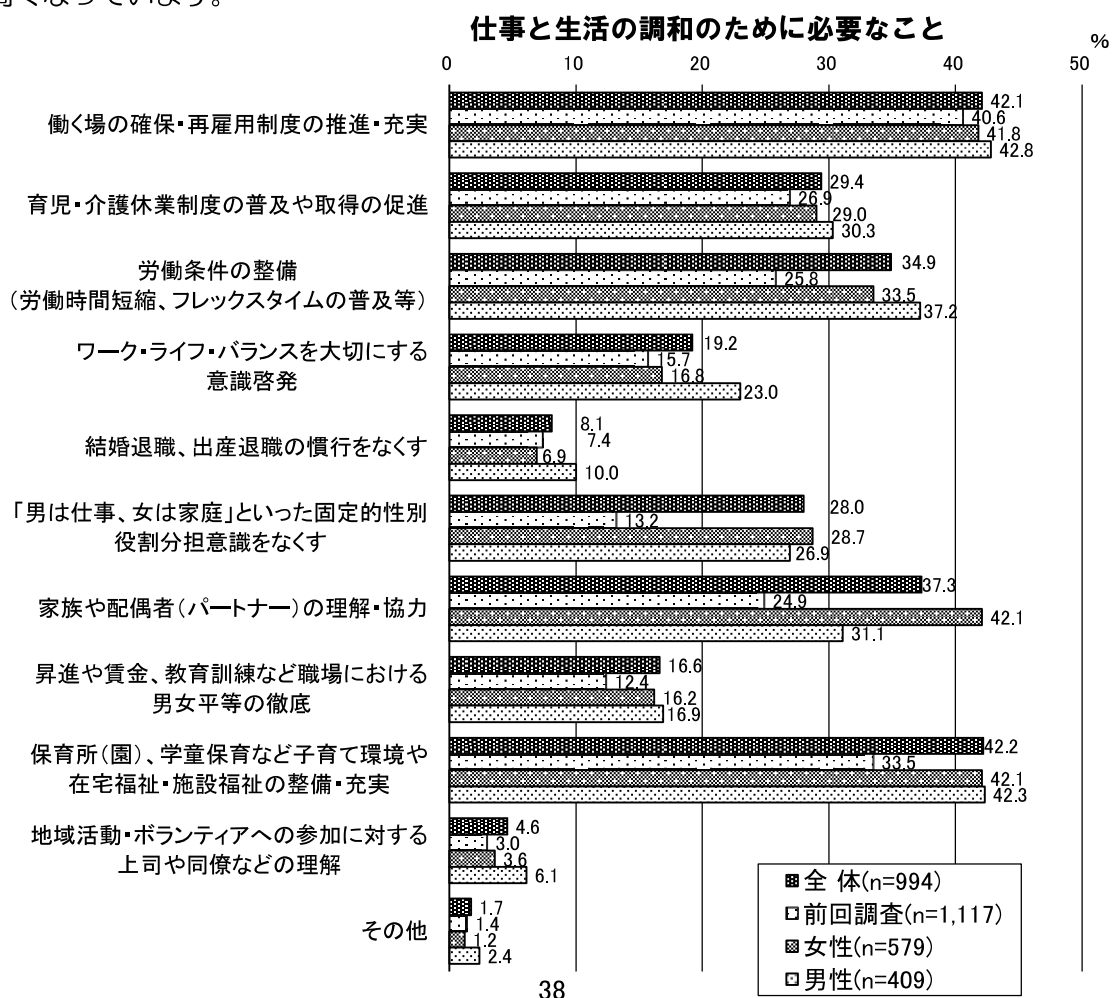


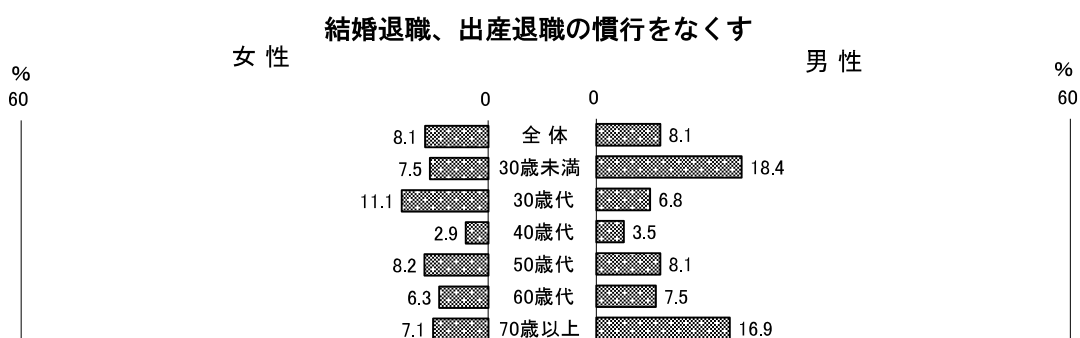
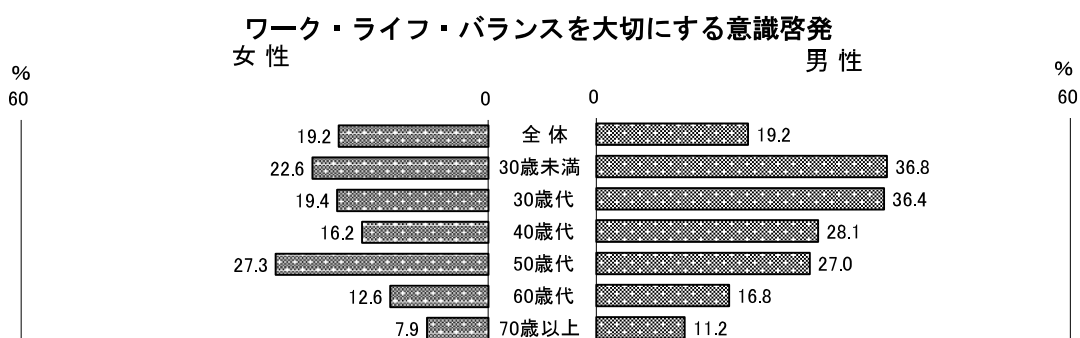
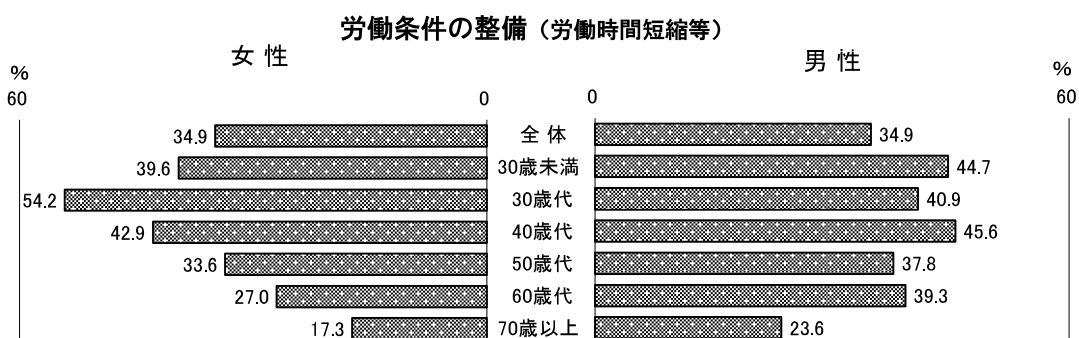
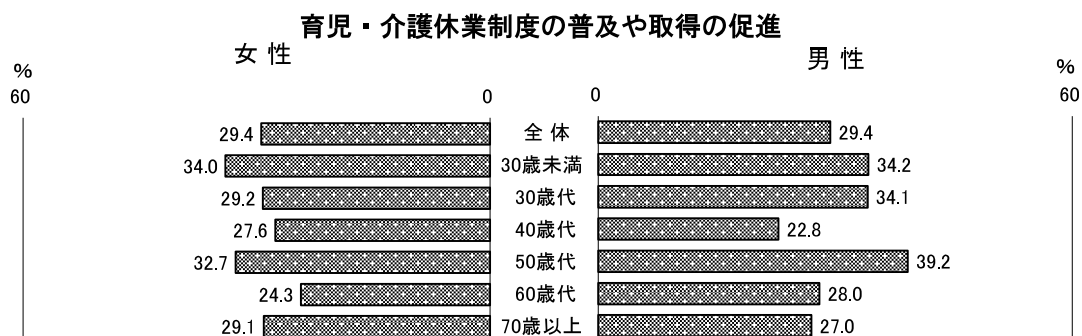
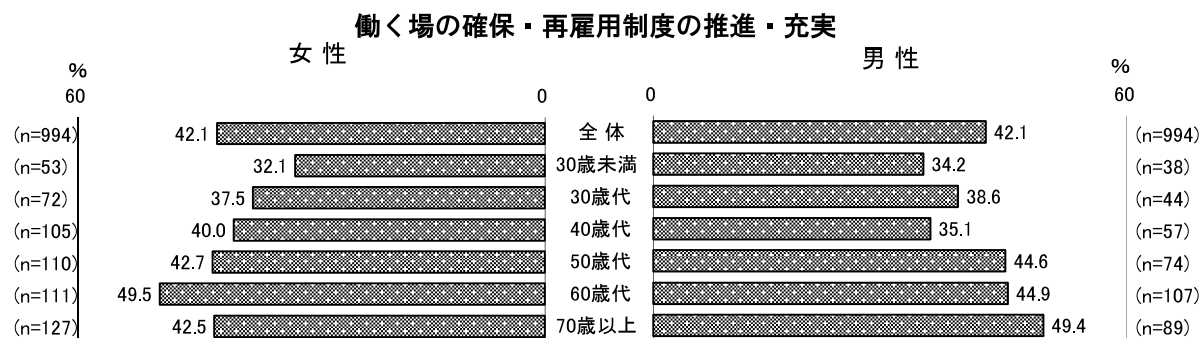
個人生活（第1に）



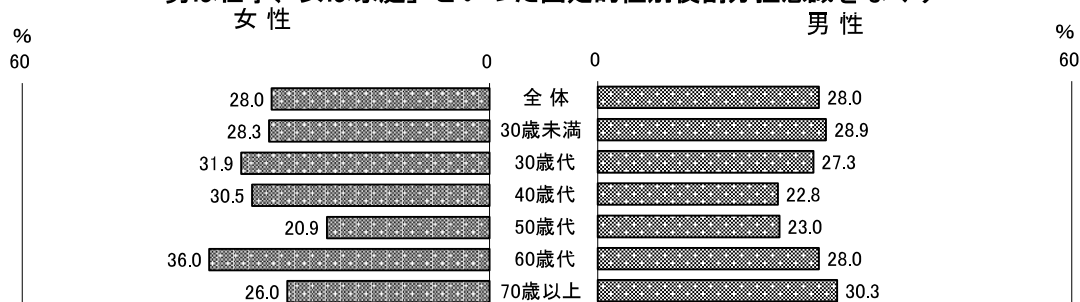
問 18 今後、男女がともに仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。[あてはまるもの3つまでに○]

- ・全体では、男女がともに仕事と生活の調和を図るために必要なこととして、「保育所（園）、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」（42.2%）、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」（42.1%）、「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」（37.3%）、「労働条件の整備（労働時間短縮、フレックスタイムの普及等）」（34.9%）などが上位です。子育て・福祉の充実、家族の理解など自己の生活に関すること、及び就業やその環境の整備などがあげられています。
- ・前回調査からは「保育所（園）、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」「労働条件の整備」などの割合が伸びました。
- ・性別でみると、女性では「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」の割合が高いです。男性では「労働条件の整備」「ワーク・ライフ・バランスを大切にする意識啓発」が高いです。
- ・性別・年齢別にみると、「保育所（園）、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」に対しては男性40歳代や女性50歳代・30歳代の支持が高いです。「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」では女性60歳代が、また「労働条件の整備」では女性30歳代が最も高くなっています。

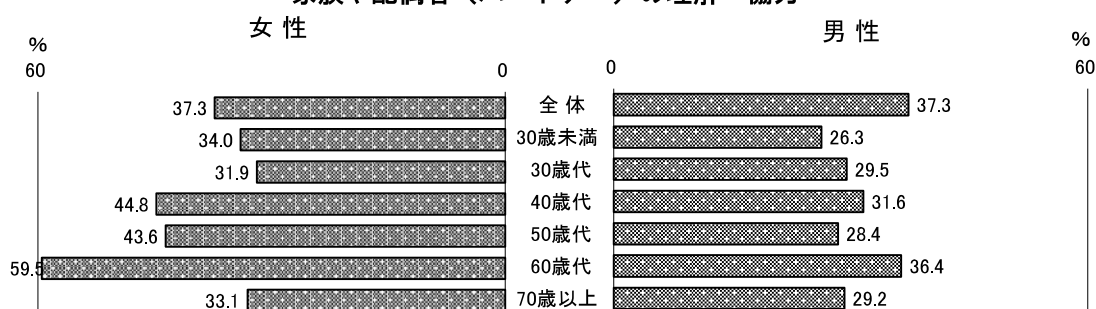




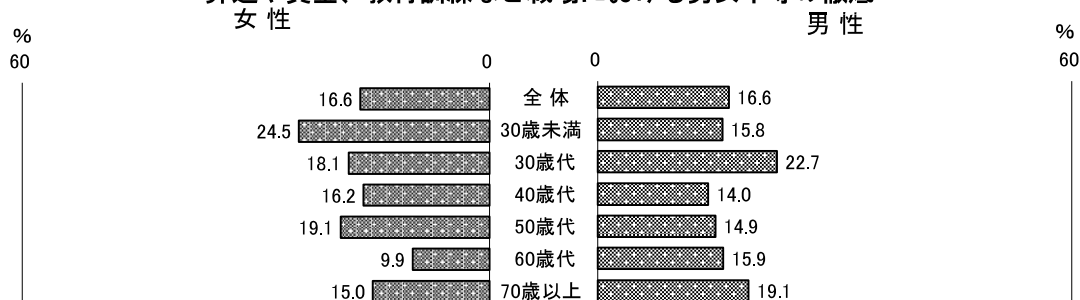
「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識をなくす



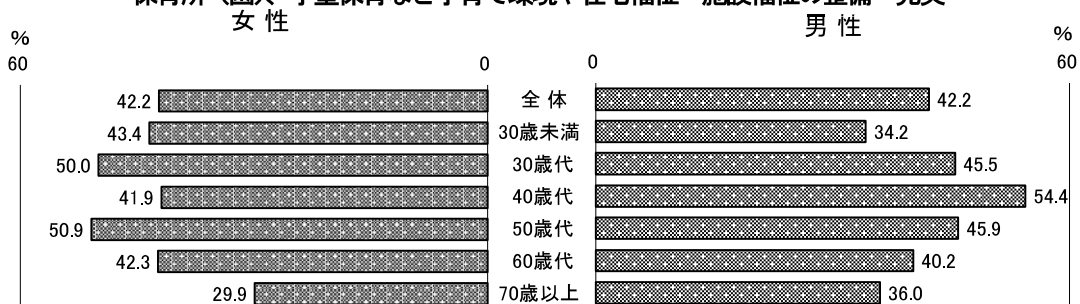
家族や配偶者（パートナー）の理解・協力



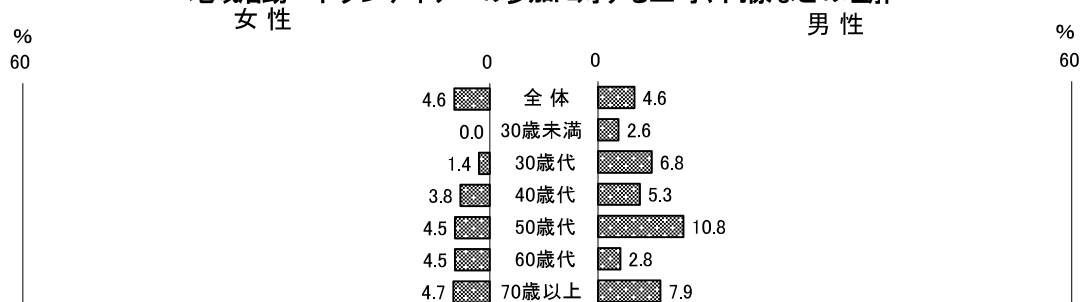
昇進や賃金、教育訓練など職場における男女平等の徹底



保育所（園）、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実



地域活動・ボランティアへの参加に対する上司や同僚などの理解

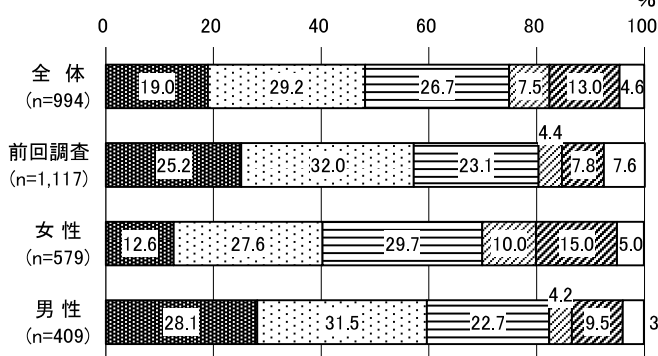


子どもの育て方や教育について

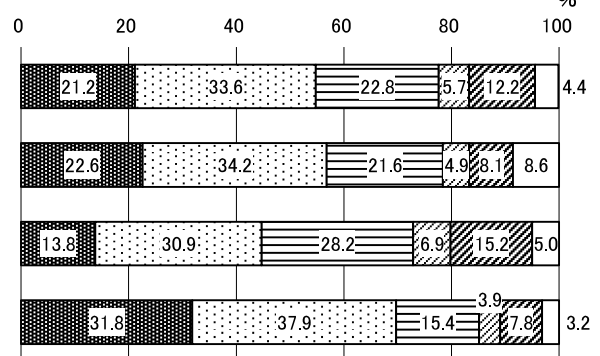
問 19 あなたは、子どもの育て方について、次の(1)～(5)の項目についてどのように思いますか。〔(1)～(5)それぞれに○は1つ〕

- 全体では、子どもの育て方について、「そう思う」の割合は、『(4)子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』の37.4%が最も高く、これに『(2)妻や子どもを養うのは、男性の責任である(21.2%)』が続いています。
- 「そう思わない」の割合が「そう思う」を上回るのは、『(3)育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい』と『(5)男性の方が女性より、管理職としての資質がある』です。
- 前回調査と比較すると、前回調査時は問いかけが「日常生活や子育てについて」であった点に注意が必要ですが、(1)～(5)を通じて「そう思う」の割合が低下しています。特に、『(1)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい』は6ポイント下がりました。
- 性別でみると、おおむね男性で「そう思う」の割合が高く、女性割合の方が高いのは『(4)子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』のみです。
- 性別・年齢別にみると、『(4)子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』の「そう思う」割合は男女ともに60歳以上で40%を超えており、年齢層が上がるほどに上昇する傾向があります。
- 『(2)妻や子どもを養うのは、男性の責任である』の「そう思う」割合は男性の各世代を通じて高いです。
- 『(1)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい』の割合が高いのは、男性の40歳代以上の層です。

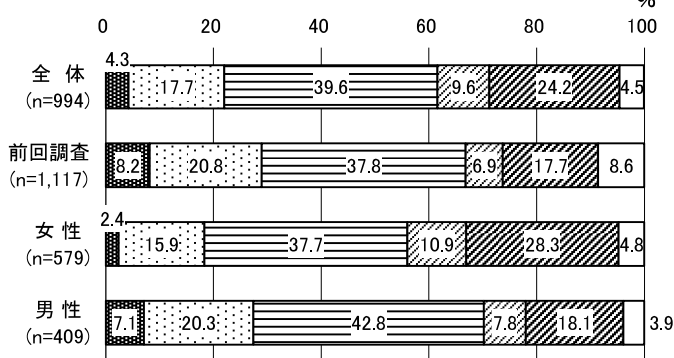
(1) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい



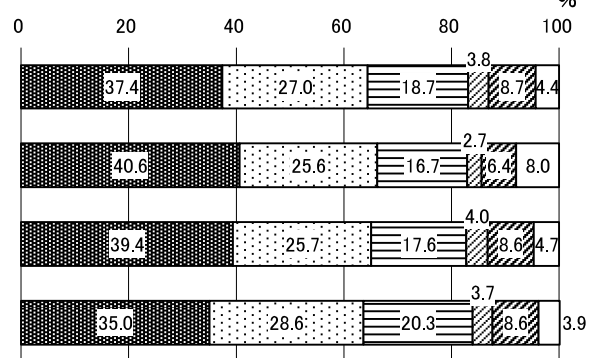
(2) 妻や子どもを養うのは、男性の責任である



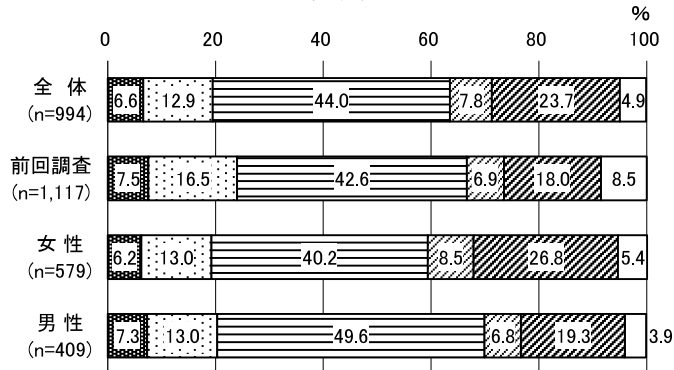
(3) 育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい



(4) 子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい

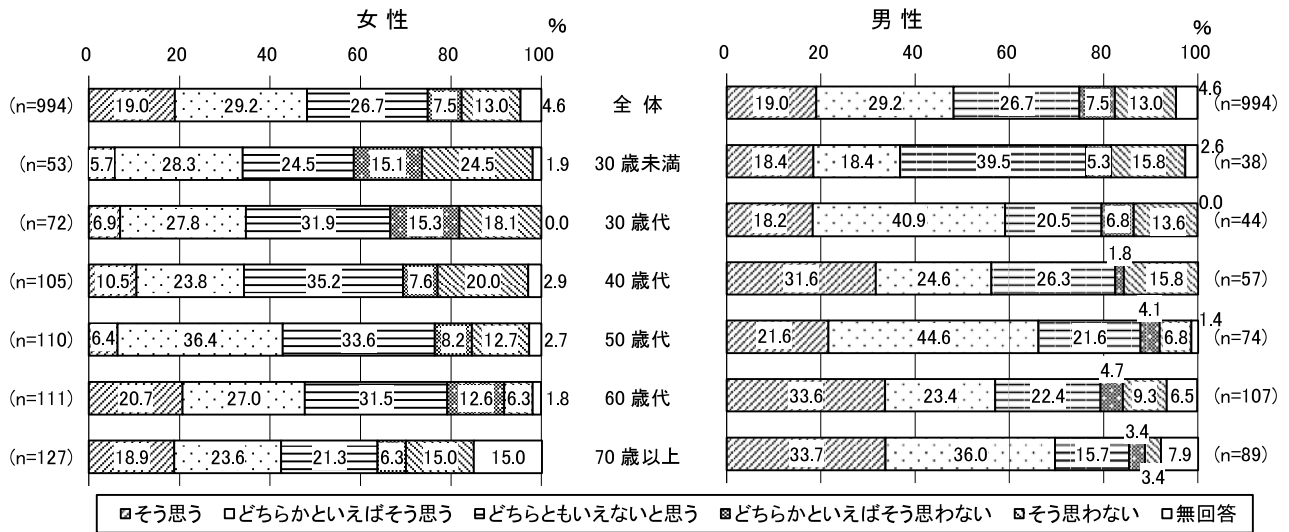


(5) 男性の方が女性より、管理職としての資質がある

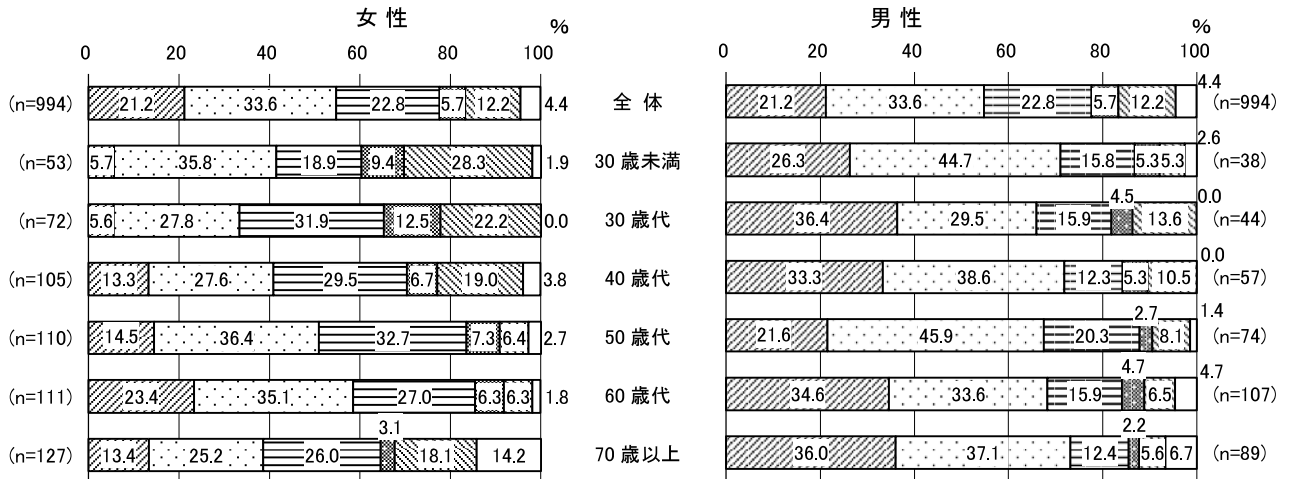


- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえないと思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- 無回答

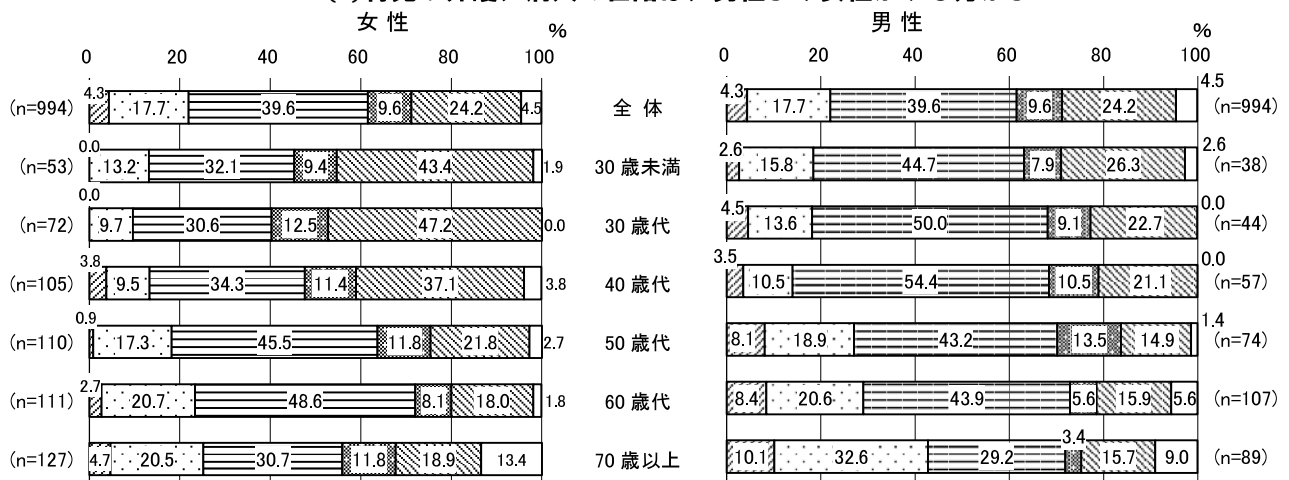
(1)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい



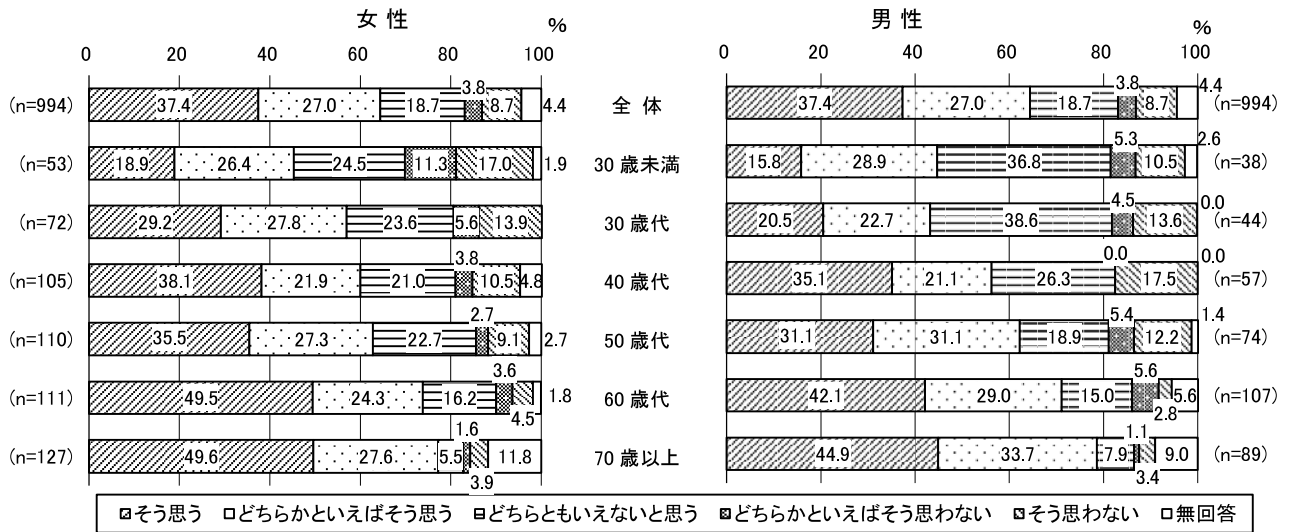
(2)妻や子どもを養うのは、男性の責任である



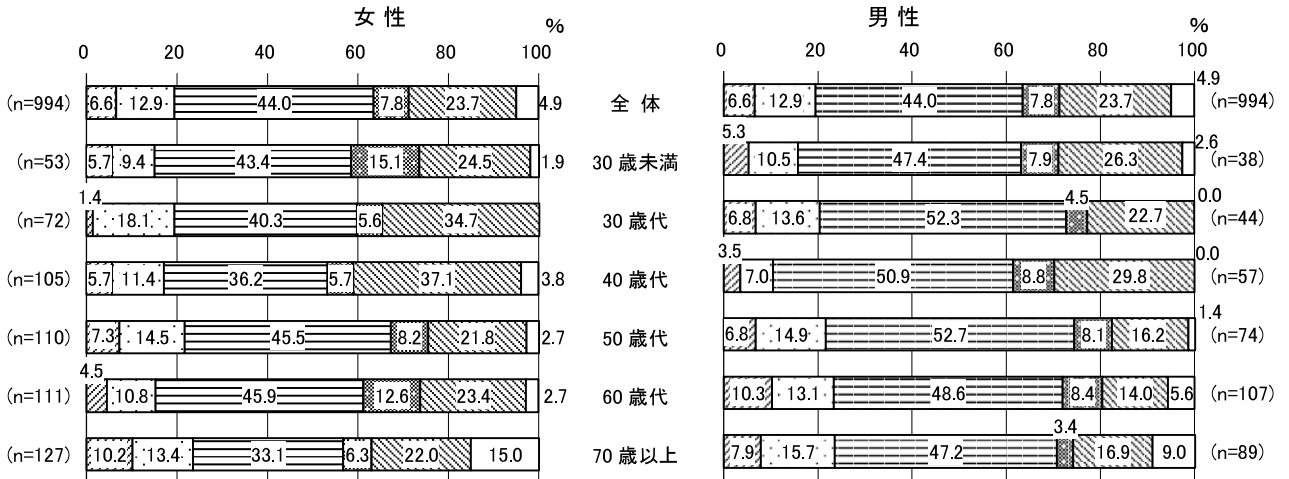
(3)育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい



(4)子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい



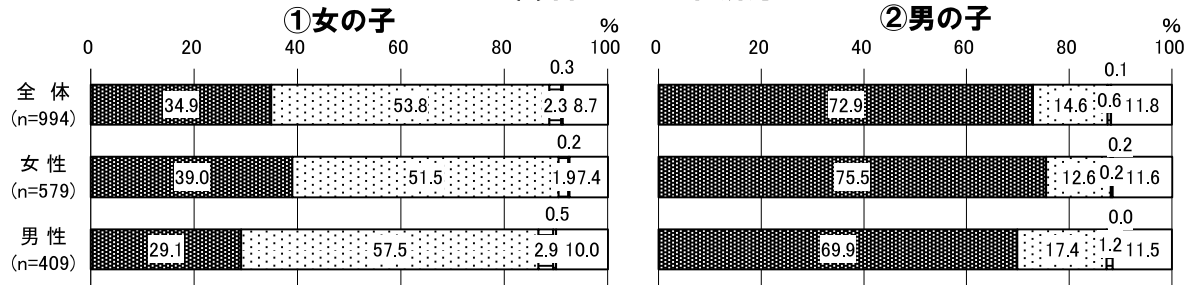
(5)男性の方が女性より、管理職としての資質がある



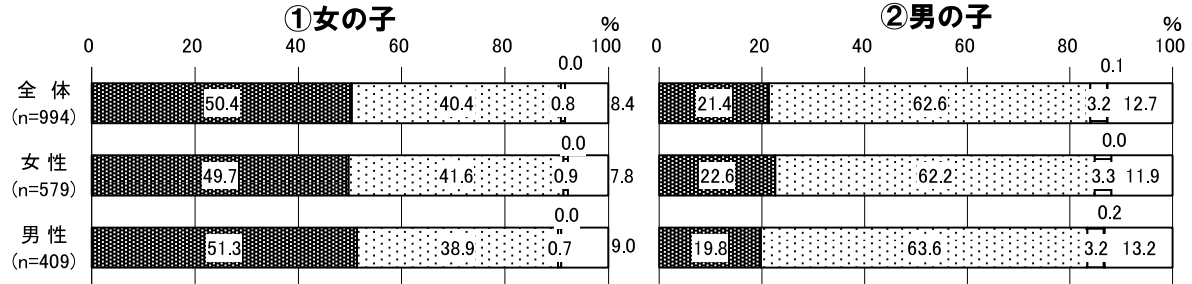
問 20 あなたは、次の(1)～(5)について、お子さんにどのくらい身につけてほしいと思いますか。①女の子、②男の子、それぞれについてお答えください。[(1)～(5)の①②それぞれに○は1つ] ※お子さんがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。

- 全体では、子どもに身につけてほしいこととして、「必ず身につけるべきだ」とする割合は、①女の子の場合、『(5)自立心』>『(2)家事・育児の能力』>『(3)家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力』>『(1)自立できる経済力』>『(4)個性を伸ばすこと』の順です。
 - ②男の子の場合は、『(1)自立できる経済力』>『(5)自立心』>『(3)家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力』>『(4)個性を伸ばすこと』>『(2)家事・育児の能力』となっており、家事・育児の能力や経済力において、子どもの性別による期待度が大きく異なります。
 - 「必ず身につけるべきだ」とする割合が最も高いのは、『(1)自立できる経済力(②男の子 72.9%)』、次いで『(5)自立心(②男の子 67.3%)』です。
 - また、「必ず身につけるべきだ」とする割合について、①女の子の場合と②男の子の場合の差が大きいのは、『(1)自立できる経済力(②男の子が高く、①女の子との差は38ポイント)』、『(2)家事・育児の能力(①女の子が高く、②男の子との差は29ポイント)』などとなっています。
 - 「あまり身につけなくてよい」「身につけなくてよい」の割合は、全体、女性、男性を通じて小さく、この合計は最大で『(4)個性を伸ばすこと』の①女の子で4.5%です。
-
- 性別・年齢別にみると、①女の子が『(1)自立できる経済力』を「必ず身につけるべきだ」とする割合は、女性40歳代が最も高く、女性30歳未満がこれに次いでいます。『(2)家事・育児の能力』では女性30歳未満では最も高いですが、女性30歳代では最も低くなっています。
 - ②男の子が『(1)自立できる経済力』を「必ず身につけるべきだ」とする割合では、女性40歳代、次いで30歳代で高いです。『(2)家事・育児の能力』では、高い順に女性40歳代>男性30歳代>女性30歳未満となります。

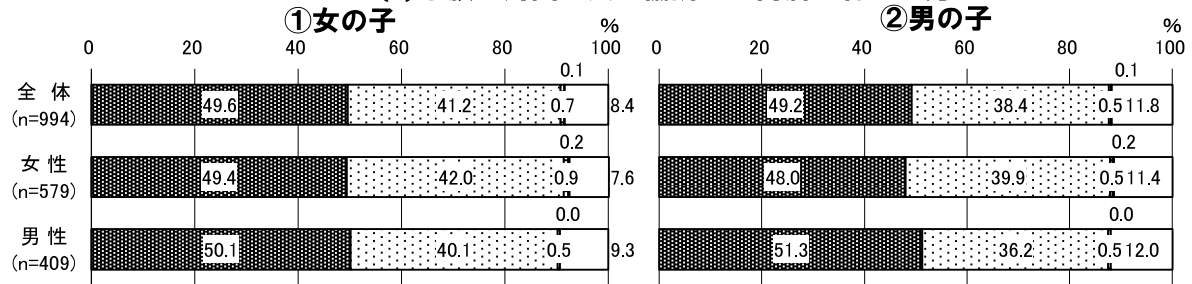
(1) 自立できる経済力



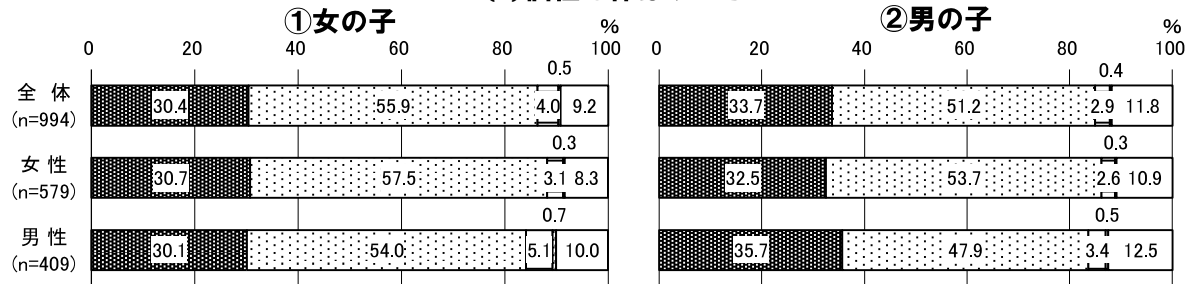
(2) 家事・育児の能力



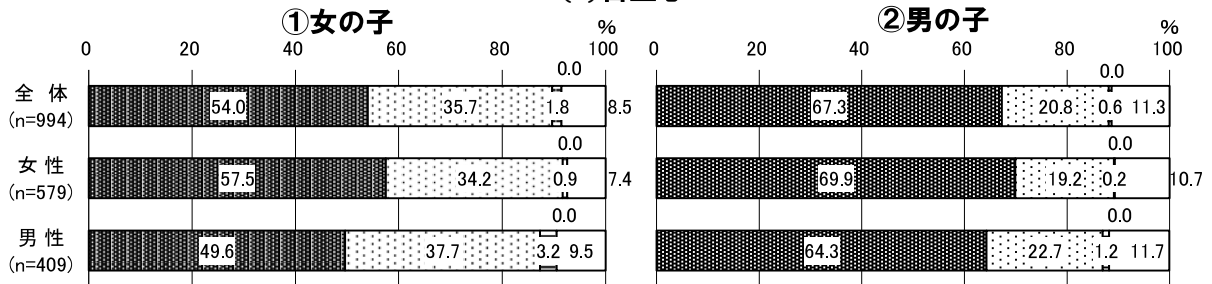
(3) 家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力



(4) 個性を伸ばすこと

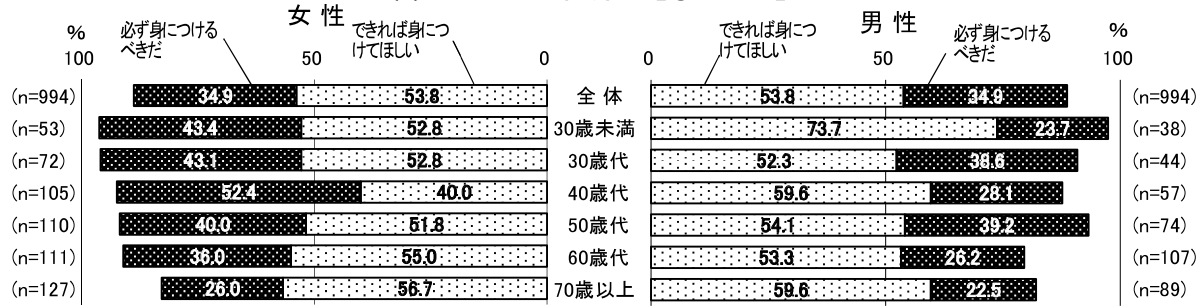


(5) 自立心

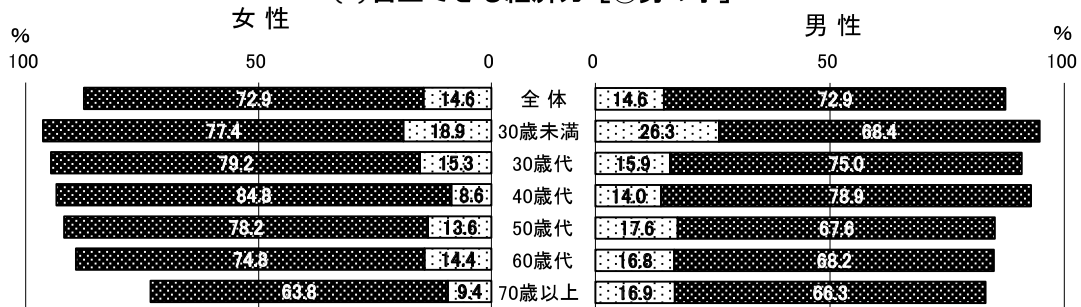


必ず身につけるべきだ
 できれば身につけてほしい
 あまり身につけなくてよい
 身につけなくてよい
 無回答

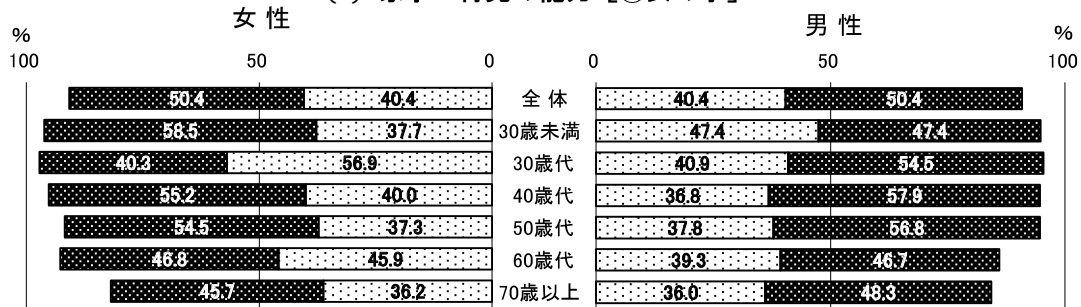
(1) 自立できる経済力 [①女の子]



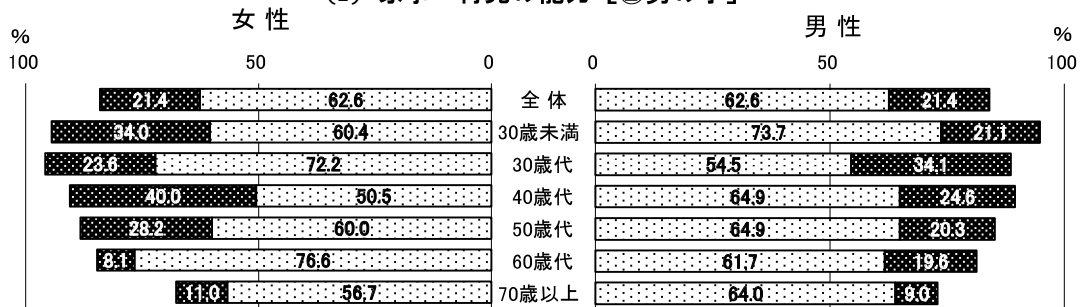
(1) 自立できる経済力 [②男の子]



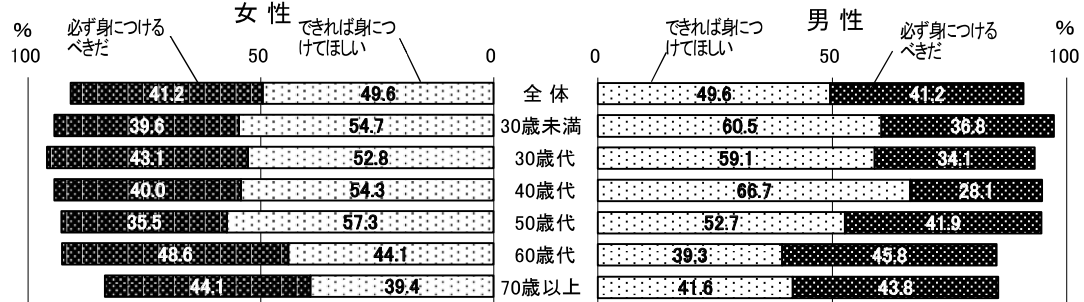
(2) 家事・育児の能力 [①女の子]



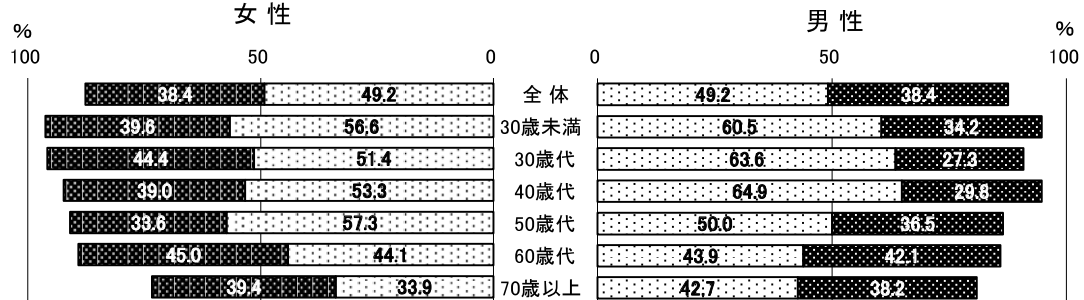
(2) 家事・育児の能力 [②男の子]



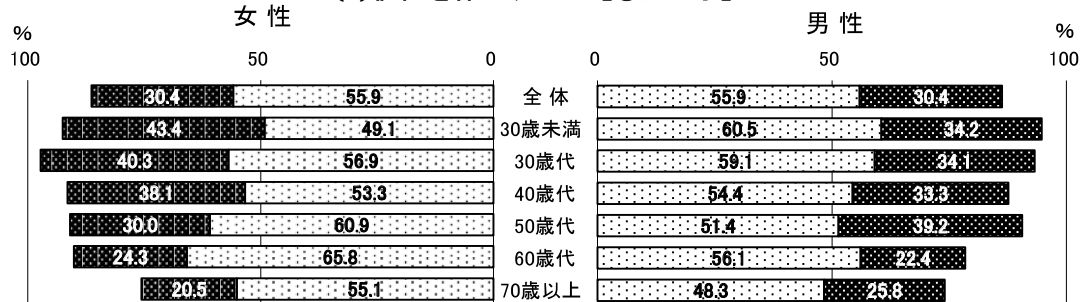
(3) 家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力 [①女の子]



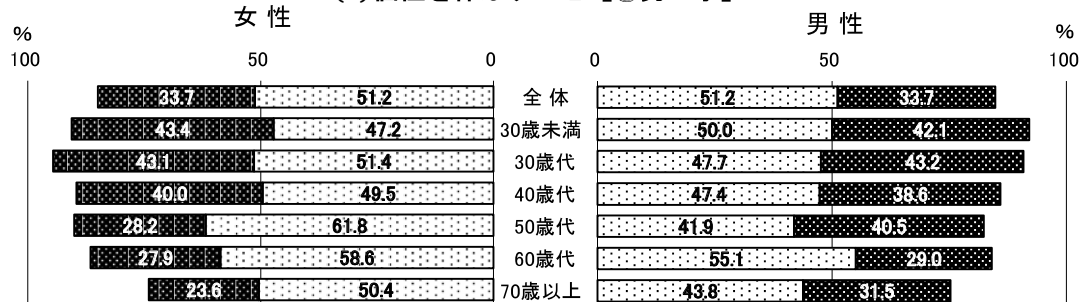
(3) 家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力 [②男の子]



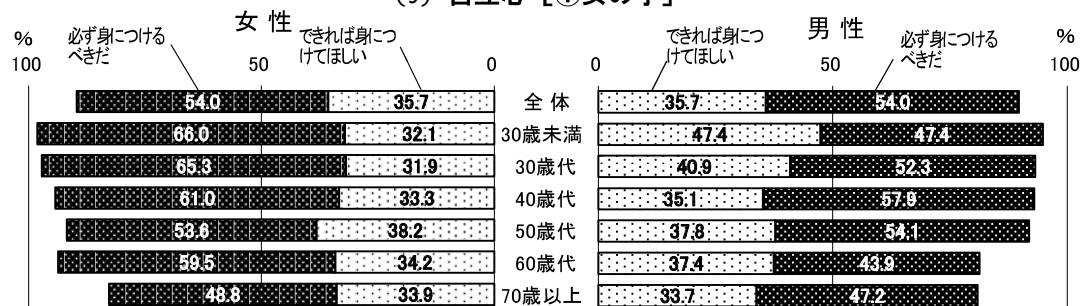
(4) 個性を伸ばすこと [①女の子]



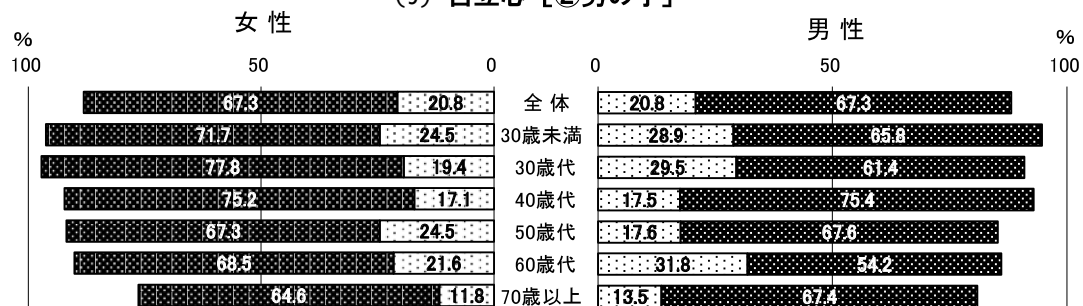
(4) 個性を伸ばすこと [②男の子]



(5) 自立心【①女の子】



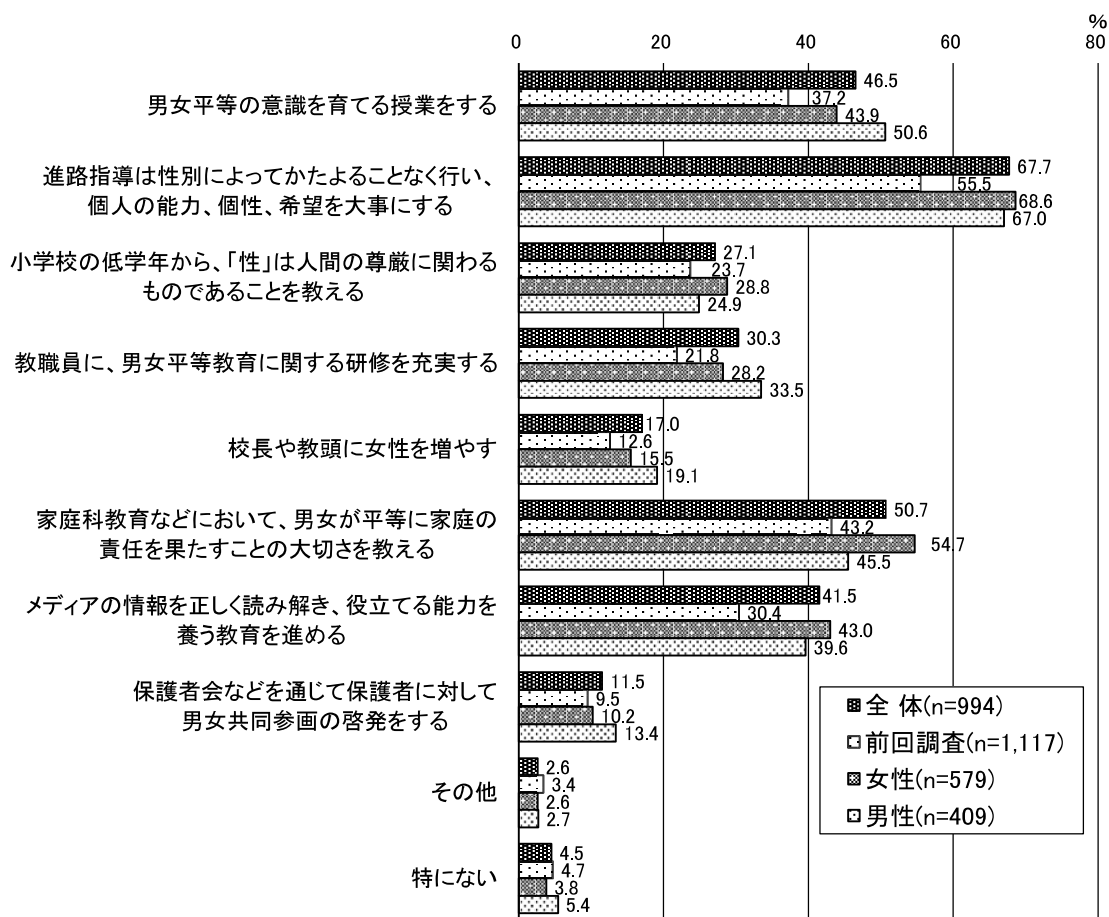
(5) 自立心【②男の子】

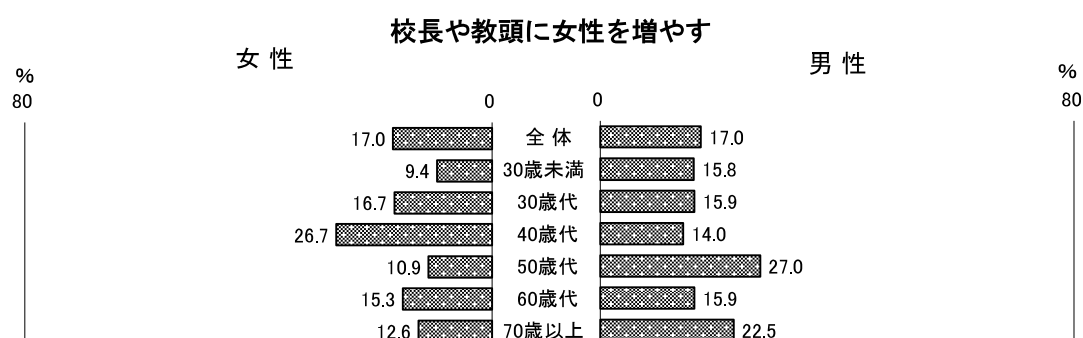
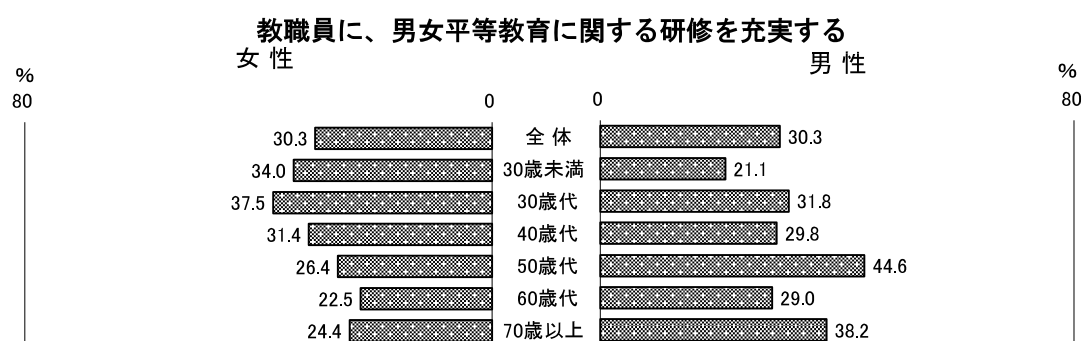
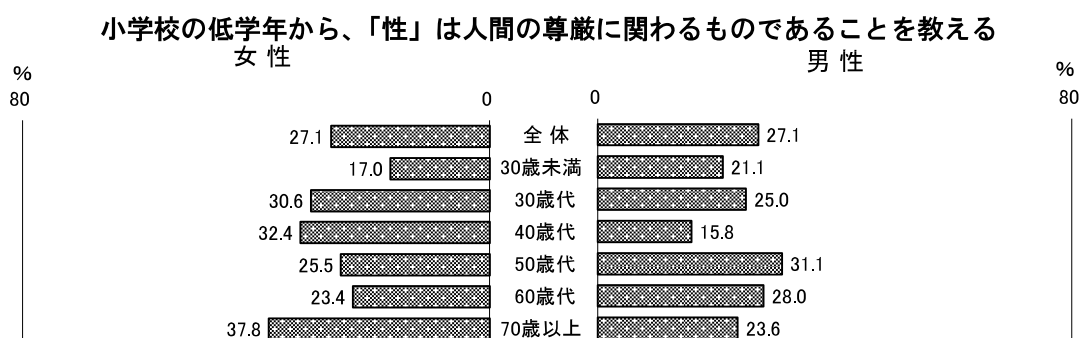
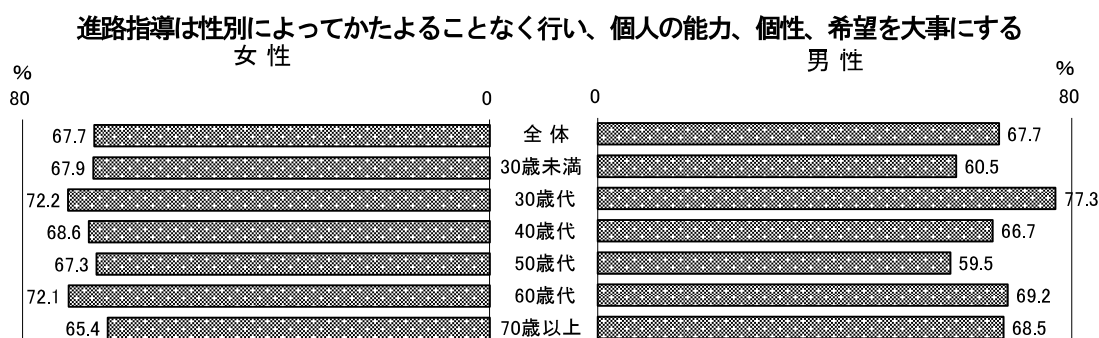
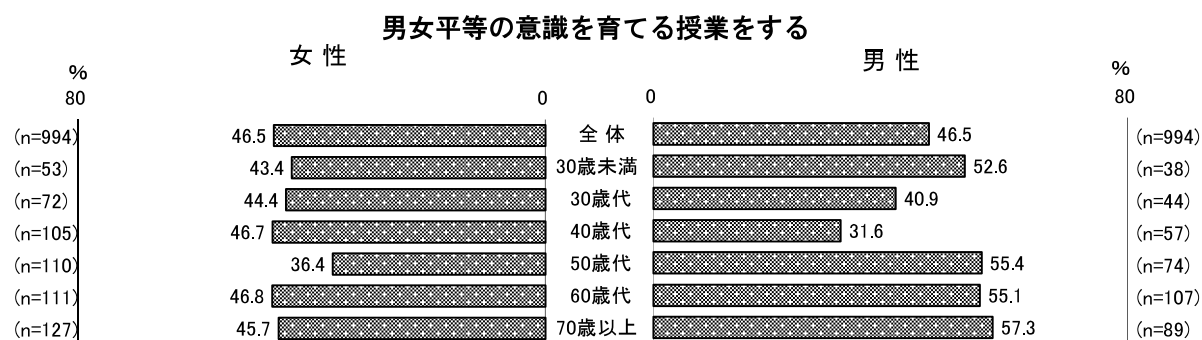


問 21 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。〔〇はいくつでも〕

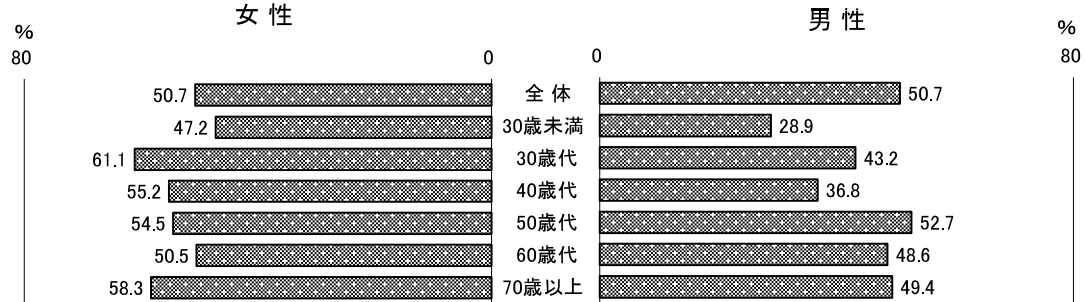
- 全体では、学校教育において必要だと思う取り組みについて、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」(67.7%)が最も高く、この他に「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」(50.7%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(46.5%)、「メディア(インターネット、テレビ、新聞など)の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める」(41.5%)が40%以上の支持を得ています。
- 前回調査と比べると順位はほぼ同様に、また今回調査では、ほとんどの選択肢の割合が高くなっています。
- 性別では、「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」では女性の割合が高く、「男女平等の意識を育てる授業をする」では男性の割合が高いです。
- 性別・年齢別にみると、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」は男女の30歳代が、また「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」は女性30歳代の支持が高いです。また男性30歳未満では、この割合が最も低いです。

男女平等を進めるために小・中学校で重要な取り組み

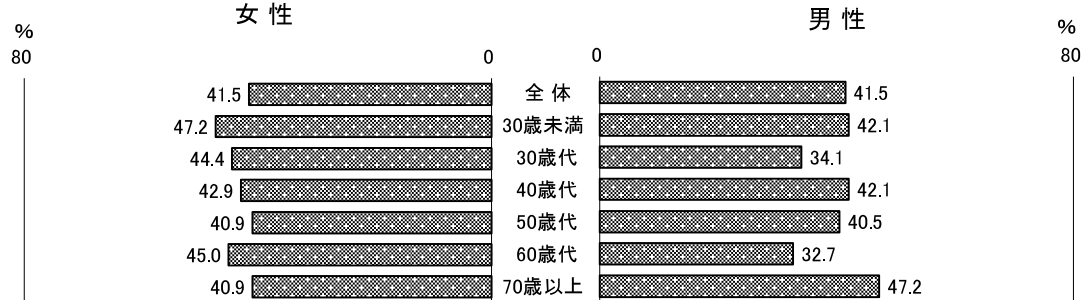




家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える



メディアの情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める



保護者会などを通じて保護者に対して男女共同参画の啓発をする

